
埼玉医科大学総合医療センター

消化管・一般外科

2011 年度年報



ご挨拶

消化管・一般外科 教授 石田秀行

東日本大震災から1年余が過ぎましたが、復旧・復興の道筋が十分整備したとは言い難く、とりわけ生活基盤を失われた方々に対し、一日でも早く明るい見通しがつくよう願ってやみません。本冊子が皆様のお手元に届く頃には混迷するわが国の政治情勢に新たな方向性が見えてくるのか、またヨーロッパを中心とする経済の混乱が立ち直りの兆しを見せるのか、大変気がかりなところであります。

今回お届けする本冊子は、消化管・一般外科として外科再編後歩んできた7年目の記録です。昨年同様教室員が一丸となって突っ走ってきた「通信簿」そのものです。「見かけ」の評価ではなく、「質」にも多少こだわった1年であったと思いますが、振り返ってみますとまだまだ改善すべきところも多く、今後のさらなる向上に鋭意努力していく所存です。

今回の冊子では、今年の元日に逝去された出月康夫先生の薫陶を受けた旧外科OBの先生方にも御執筆頂きました。私も1996年1月に東京医科歯科大学第2外科（当時、三島好雄教授）から、出月先生が主宰される旧第2外科に赴任し、5年間御指導頂きました。出月先生は東京大学第二外科教授を退官後、1995年に総合医療センター旧第2外科教授に着任されました。その後、第1外科、第2外科を統合され、消化器外科、乳腺・内分泌外科、小児外科、血管外科を統括されました。当時はわが国の内視鏡外科の黎明期であり、教室員が一丸となって内視鏡外科に関する基礎・臨床研究を行っていたのが昨日のように思い出されます。出月先生御自身は門脈圧亢進症や移植外科が御専門であったと拝察致しますが、その「守備範囲」はきわめて広く、外科学全般に深い見識を持たれ、その「大きさ」は、はかり知れないほどでありました。先生は若手の教室員には常に世界に目を向ける大切さを常に説かれ、ときに厳しく、ときに大変優しく教室員に接して頂きました。出月先生が御尽力された教室作りにはとても及ぶべくもありませんが、私なりに全身全霊で今後の教室運営にあたっていく所存です。この紙面をお借りして、生前の先生のご厚誼に深く感謝致しますとともに、冥福をこころよりお祈り致します。

最後に診療体制について触れさせていただきます。本年4月に診療報酬改訂が行われ、遅巻きながら外科の技術に対する評価が認められるようになりました。特に腹腔鏡手術に対する保険適応が拡大されました。今春以降、土曜日の手術枠を効率的に活用することで、胃癌・大腸癌などに対する腹腔鏡手術が大幅に増加しています。来年度には今年度とは少し異なる診療実績を御報告できると思います。いずれにしても、治療を受ける患者さまの立場に立って、最良の医療が提供でき

るよう、教室員一同精進していく所存ですので、医療機関の先生方には今後とも
ご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成 24 年 6 月

2011年度 フォトアルバム

2011.4.21 第9回国際胃癌学会



2011.5.12 幡野先生ハンガリー留学
サンドラー教授と食事会



2011.7.15 第66回日本消化器外科学会総会



2011.7.20 納涼会

2011.9.17 第822回外科集談会

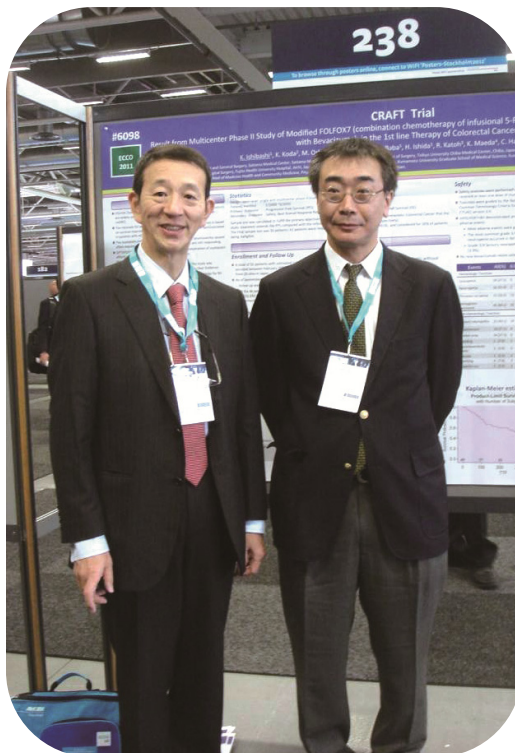
桑原先生の初座長



2011.9.25 ESMO

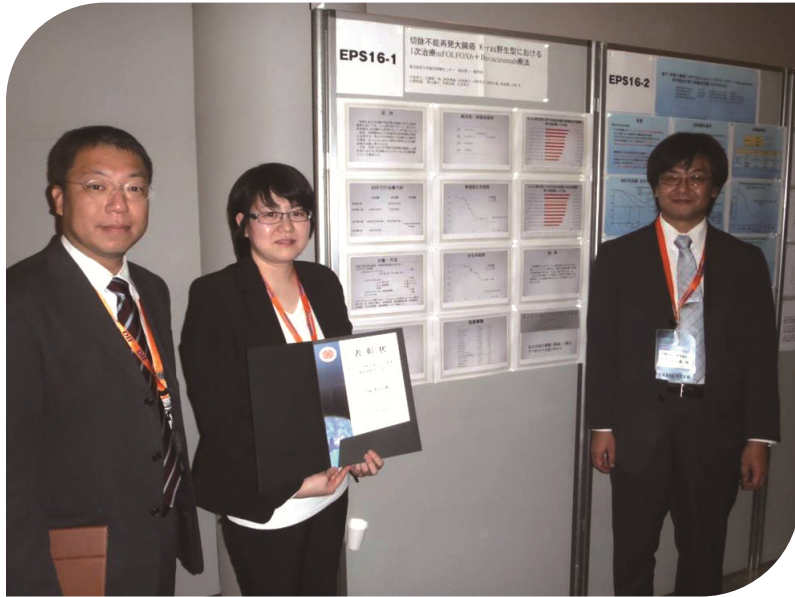
名古屋大学教授坂本純一先生と

石橋准教授



2011.10.28 第49回日本癌治療学会

今泉先生 優秀ポスター賞（岡田先生，薬剤師佐野先生と）



2012. 1.11

新年会



2012.1.20 第76回大腸癌研究会ランチョンセミナー



2012.3.13 第48回日本腹部救急医学会

北村先生 研修医優秀賞（桑原先生、ER 橋本先生、坂庭先生と）



2012.3.13 第48回日本腹部救急医学会
深谷赤十字病院副院長 伊藤博先生とともに



2012.3.20 第5回石田杯



2012.6.16 教室員



目 次

巻頭言

教授 石田秀行

2011 年度 フォトアルバム

寄 稿

いい仕事に乾杯！	1
帝京大学医療技術学部 教授 村田宣夫	
出月先生の微笑み	2
献心会川越胃腸病院 副院長 藤野幸夫	
「輝ける日々」	4
赤心堂病院 外科副部長 山田博文	
医局長（総務）ご挨拶	5
准教授 石橋敬一郎	
消化管・一般外科の一員となって	6
助教（大学院生） 今泉英子	
消化管・一般外科入局のご挨拶	7
助教 松澤岳晃	
ハンガリー留学報告	8
助教 幡野 哲	
大腸癌研究会家族性大腸癌委員会事務局が当医局内に移管されました	9
准教授 石橋敬一郎	
診療実績	11
当科における診療・研究・教育	20
教育カンファレンス	23
業 績	
総説	27
学術論文	28
学会発表	35
座長・司会	50
講演会・懇話会など	52
主な学会・研究会発表の年次推移	57
学位・賞	58
人 事	59
編集後記	60

寄稿

いい仕事に乾杯！

帝京大学医療技術学部 教授（旧外科 OB）
村田宣夫

埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科における1年間の仕事の集大成がここに書き記されています。厳しい医療環境の中で埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科の皆さまが石田教授のもとで日々努力され、年々症例数が増え、素晴らしい診療実績を上げておられることがわかります。その努力と実行力に心から敬服する次第です。右肩上がり、とは経済用語ですが、医療の世界でも右肩上がりに診療実績が上がって行くことは理想的な展開です。良い診療をして、良い結果を得て、患者さんが元気に社会復帰していく。それが一つ一つ積み重なって、周辺の患者さんの信頼が次第に増してきていることを示していると思います。

しかも、この忙しい臨床の合間に臨床研究や臨床に繋がる基礎的研究を数多く成し遂げ、学会発表し、丁寧に論文にされています。大学病院において医学研究はまぎれもなく重要な使命であろうと思います。あちこちの施設を見ておりますと時に日常に流され、医学研究がおろそかになりがちになっている所もあるようですが、この消化管・一般外科では、指導スタッフの医師がアイデアを出し、若手医師と共に精力的に研究を進めておられるのがよく見てとれます。臨床の合間に研究の時間を捻出するのは並大抵の努力ではありません。指導スタッフの皆さまの熱意がなくてはできないことでもあります。若手医師の皆さまのそれにこたえる気力・体力に深く感心いたします。

一時期、埼玉医科大学総合医療センターの外科は人間関係がぎすぎすしていた時期があったように聞いています。詳細は知りませんが、とてもこのような年報が出せる状況ではなかったのでしょうか。しかし、この消化管・一般外科の年報を読んでもおりますと、ここ数年、医局がしっかりとまとまっていることが分かります。医師・看護師・その他のスタッフが和気あいあいと仕事に励んでおられるのが目に浮かんでまいります。これからも全員が協調性を忘れずに、埼玉県基幹病院としての埼玉医科大学総合医療センターの先頭に立って、患者さんのために立派な仕事を遂行されていかれることを期待しております。

出月先生の微笑み

献心会川越胃腸病院 副院長（旧外科 OB）

藤野幸夫

平成 24 年 1 月 1 日、埼玉医大総合医療センター外科元教授、出月康夫先生が永眠されました。享年 77 歳でした。腎臓癌術後の再発転移でしたが、ご自宅で家族に見守られての最期でした。

私が出月先生と初めてお会いしたのは 1995 年 4 月のある日曜日の午後でした。その当時は休日でも助手以下の若い外科医は病棟で患者の回診や処置などをしておりました。その業務が終わり、5 階の医局で数人の医局員と休憩していた時、突然一人の男性が微笑みながら入ってこられました。今ごろ誰がやってきたのかと振り返るとその男性はただ優しく微笑んで、皆を眺めておりました。その場の上級医だった私は、その風貌から出月康夫先生であると直感し、思わずソファから起立いたしました。他の医局員も全員、直立不動でした。その場の誰もが先生と面識がありませんでしたから。出月先生は微笑みながら“ちょっと寄っただけだから”と一言。“でもすこし病院を案内してくれるかな”とさらに一言。これまで出月康夫先生といえば、私の日本外科学会認定医認定書の会長名でしか接点のない存在でした。出月先生は何の前触れもなく、気さくに、当たり前のようにわれわれの前に現れました。

それから 2 か月後、私は第二外科の医局長を命じられました。その当時、関正威先生が急死されてからトップが不在の状況が続いており、それぞれのチームの方針で治療や実験などがすすめられ、悪く言えば無法地帯の様相でした。先生は就任以来、外来、病棟、手術、カンファ、臨床研究など多くの部門を改革、統合し現在の基礎を作りました。その当時、外科は第一第二と別れておりましたが、いずれ大外科にするという大学の方針でしたので、その基礎作りを実践してゆきました。

“藤野君、いい話があるんだけどな” それから 1 年半が過ぎたある夏の日のこと、出月教授から急遽留学を命ぜられ、何のためらいもなく、私は UCSF に出かけてしまいました。2 年後帰国してみると、見事に埼玉医大総合医療センター外科は“大外科”になっておりました。消化管・一般外科、肝胆膵外科はもちろん呼吸器外科、血管外科、乳腺外科、心臓外科、小児外科まで出月康夫先生を主任教授としてまとめられ、医局員 37 名の大所帯になっていました。再び医局長を命ぜられ、先生が定年までの最後の医局長となりました。国内外の学会で埼玉医大総合医療センターと名前を出しますと“あ一出月先生のところですね”と他の施設の先生方から言われるようにまでありました。

定年で退任されたあとも臨床外科学会、内視鏡外科学会さらに外保連等でご活躍でしたが、残念ながら病魔には勝てず他界されました。しかしわれわれの胸には出月先生の気さくで優しい微笑みがいまでも生きていております。心からご冥福をお祈りいたします。



伊豆下田での医局旅行にて（1997年秋）

「輝ける日々」

赤心堂病院 外科副部長 (旧外科 OB)
山田博文

埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科学教室の年報を作成されるとのこと、石田教授を始め教室員の皆さんの益々のご発展を祈念いたします。

さて、私が埼玉医大総合医療センター第2外科教室に入局致したのは、今から丁度25年前の1987年5月でした。当時は、総合医療センターが出来て3年目で、まだオープンしていない病棟が沢山ありました。私は川越高校の出身であったため、地元で大きな病院が出来たとのこと、胸ふくらませて研修に入ったことを鮮明に思い出します。毎日不眠不休の研修医時代を過ごしました。私にとって総合医療センターでの大きな出来事として、第1外科と第2外科の統合があります。当時私は本年お亡くなりになられた出月康夫教授のもと、医局長を拝命しており、心臓外科から小児外科に至る全ての外科が一つになった瞬間を経験することとなりました。大外科となり、医局が一気に大きくなり、新しい先生方も多数見えられ、活気あふれる雰囲気がありました。また、病棟が4階西と5階西の2つの階に分かれていたため、4階フロアに統一する病棟移動を行ったことも苦労が多く、大事業であったことを記憶しています。

現在私は、川越駅前にある赤心堂病院外科に在籍しています。町の外科医として地域医療に携わっています。こちらに来て、癌研時代より興味があった乳がん診療を開始して、大学在籍時とは少し違った外科医の在り方を歩んでいます。当院には、毎週金曜日伊藤先生を始め沢山の消化管・一般外科の先生方に助けて頂き、本当に感謝しています。

センターの外から皆さま方の外科を拝見していますと専門外科で高度な治療を行う教室としてきらきら輝いているように感じます。私が走ってきた大学での17年間の日々もきっと皆さま方と同様に精一杯頑張っていた時であったろうと感じます。これからも益々輝ける日々を過ごされることを切に願います。

医局長（総務）ご挨拶

准教授 石橋敬一郎

2012年1月より埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科医局長を拝命致しました。関連施設の先生方におかれましては、日頃より教室運営に多大なご協力頂きありがとうございます。

当教室は2005年4月外科再編後に誕生したばかりで、歴史は浅いものの、石田教授のもと、少数ではありますが、やる気に満ちたスタッフが協力して、日々臨床で第一線のレベルを保ちながら、臨床・基礎研究の方面においても国内外学会発表、論文等で活躍しております。初期研修医制度が導入されて以来、外科系を希望する医師が減少しております。当教室も例外ではありません。こうした状況を打破するために、新人の確保に全力をかたむけるとともに、現スタッフに対しては、個々のニーズにも対応可能な研修ができるように最大限努力していく所存であります。

まだまだ至らない点多々あるとは思いますが、関連施設の先生方と密に連絡を取りながら、教室運営に全力を尽くす所存であります。今後ともよろしく願いいたします。

※埼玉医科大学ではすでに医局制度は撤廃されていますが、診療科の総務担当者が従来の医局長に相当します。本稿では旧来の「医局長」の呼称使用させて頂いたこととお断り致します。以下同様の扱いとさせていただきます。

消化管・一般外科の一員となって

助教（大学院生） 今泉英子

2011年4月より、埼玉医科大学総合医療センター 消化管・一般外科の一員として、ここ川越で働くこととなり、気づけば1年が経過しました。

平成15年に金沢医科大学を卒業後、同大学 一般・消化器外科学に入局し6年、そして、故郷である福島に戻り、2年間を福島県立医科大学 器官制御外科学講座に所属し、消化器外科、乳腺外科、内分泌外科を中心に、臨床医療を学んで参りました。

器官制御外科学講座では、大学院に進学し、癌遺伝子を中心としたバイオ研究が盛んに行われ、周りの大学院生から刺激され、少しずつ、バイオ研究・腫瘍分子学的研究にも興味を持つようになりました。そんな時、福島県立医科大学 器官制御外科学講座の主任教授 竹之下誠一先生より、大学院生として研究を始めるよう勧められ、石田秀行教授のもとにご紹介いただいたのであります。大学院入学後、隈元謙介先生のご指導のもと、大腸癌組織からの遺伝子抽出などを行い、その遺伝子から、アクアポリンという水チャンネルに関係する遺伝子に絞り研究を進めています。また、2011年8月より、臨床にも携わり、現在は上部消化管チームで働いています。

総合医療センターで働き始めた頃は、迷子になるのは当たり前、電子カルテも福島で使用していたのと同じ富士通のはずが千差万別で、一から覚え直すことから始まり、病棟指示のルールも今までと異なっていたりと、右往左往するような状況が多々ありました。そんなときもチームの仲間や、病棟の看護師、その他いろんな職種の方に助けていただき、少しずつ慣れ今では、大体のことはできるようになりました。

この1年で、あだ名も命名され、忘年会では余興をさせていただいたり、学会に発表させていただいたり、さまざまな行事に参加させていただきました。教室の先生方の個性もさまざま、日々楽しませていただいております。

大学院生として、あと3年ありますが、研究・臨床を両立させながら、一員として自覚を持って、貢献していきたいと思っております。

消化管・一般外科入局のご挨拶

助教 松澤岳晃

2012年4月に、埼玉医大総合医療センター消化管・一般外科学教室に入局させていただきました。石田教授はじめ医局の先生方、スタッフの皆様、埼玉医大OB先生方および地域の先生方には今後お世話になることと思います。どうぞよろしくお願いたします。

私は2002年に新潟大学医学部を卒業。同年新潟大学第一外科学教室（畠山勝義教授）に入局しました。大学および関連病院での研修後、3年目に新潟大学大学院に入学。第一病理学教室（味岡洋一教授）にて消化器の肉眼診断・組織診断などの勉強をさせていただき、学位を取得しました。5年目より新潟大学歯学総合病院、新潟県内の関連病院を半年ごとにローテーションして消化器外科研修をいたしました。新潟大学および関連病院先生方のご指導のおかげで外科学会専門医、消化器外科学会専門医などの各種専門医の資格を取得させていただきました。

卒後10年となりさいたま市出身で実家やクリニックがこちらにあること、家庭の事情などを考慮して埼玉県内で外科医として仕事をしたいと考えるようになりました。その際、日頃お世話になっている先生に、石田教授をご紹介いただき、こちらに入局しようと決心しました。その経過で石田教授とは高校の同窓であることが判明し、これも何かの縁かなと考えています。

新潟大学第一外科医局在籍時は大腸グループに所属しておりました。こちらでも引き続き大腸の診療をさせていただくことになりました。現在は最近では比較的一般的となってきた大腸癌の腹腔鏡補助下手術をさせていただいており、2ヶ月間で7例の腹腔鏡補助下大腸切除術を施行しました。今後も大腸疾患の診療に力をいれていきたいと思っています。

最後になりますが、病院内の事、地域の事などわからないことはたくさんありますが、医局の先生方、スタッフの方々にいろいろ教えていただきすこしずつ勉強しています。早く地域のみなさまのお役に立てるようにがんばっていきたくと思いますのでどうぞよろしくお願いたします。

ハンガリー 留学報告

助教 幡野 哲

今回、埼玉医科大学教員短期留学制度により、平成 23 年 3 月 8 日から 5 月 28 日までハンガリー センメルweis 大学 外科へ短期留学をし、貴重な経験をさせていただきましたので報告いたします。

センメルweis 大学第 2 外科は、ブダペスト中心部から地下鉄、バスを乗り継ぎ、約 20 分程の場所にあります。原則的に患者さんとの会話は公用語であるハンガリー語のため、ほとんど理解もできません。したがって、ひたすら手術の助手、見学をしました。手術は、基本的な部分は日本と同様ですが、異なる点も多く改めて勉強させられる部分がありました。何でも使い捨てるの日本に比べ、何よりも糸を大事に、ものすごく短くなるまで使う姿勢には驚きました。また、日本では主流になっている器械吻合も、器械が高価であるという理由でほとんど行われておらず、久しぶりに手縫いの吻合を見ることができ、よい復習となりました。

生活面では、私は妻と 2 歳の娘と渡欧したため、あまり観光らしいことはできませんでしたが、日本では考えられない程、家族の時間を持つことができました。食事も、ほとんど問題なく、日本食が恋しくなるということもありませんでした。非常に有意義な経験になりました。

3 ヶ月と短期留学で、今回研究テーマを十分研究できませんでしたが、それ以外に多くの手術を経験できたこと、ヨーロッパの病院で臨床経験ができたこと、ヨーロッパで生活をしたことは、今後の人生で必ず役に立つ経験ができたと考えております。最後に、貴重な経験の機会をいただいた石田教授、辻准教授、また、留守中をカバーしていただいたスタッフの皆様に深く感謝申し上げます、報告とさせていただきます。

大腸癌研究会家族性大腸癌委員会事務局が当医局内に移管されました

准教授 石橋敬一郎

2012年1月の大腸癌研究会にて、石田教授が前任の当科客員教授岩間先生を引き継いで、大腸癌研究会家族性大腸癌委員会委員長の任に就かれました。就任されました。これを機に、大腸癌研究会家族性大腸癌委員会事務局をがん・感染症センター都立駒込病院より当科に移管することとなりました。事務局の仕事は、石橋と秘書の小山覚己で担当させて頂くこととなります。

大腸癌研究会では、現在、家族性大腸癌委員会以外にも大腸癌全国登録委員会、規約委員会（規約改訂委員会、リンパ節委員会、病理委員会）、ガイドライン委員会、倫理委員会、広報委員会の委員会が活動中であります。委員会としての主な仕事は、年2回の大腸癌研究会時に委員会を開催することですが、それだけでは十分な研究活動はできません。家族性大腸癌委員会では、これまでの研究活動を検証しつつ、遺伝性大腸癌の登録・研究のあり方、今後の活動に関して検討するワーキンググループ（あり方検討WG）を新たに置くとともに、あらたにFAPデータベース作成、リンチ症候群データベース作成の2つの小委員会を作成し、本邦でのFAP、リンチ症候群の把握、研究を進めていくことを、2012年5月12日の臨時委員会で承認され、新たな活動を開始したところであります。

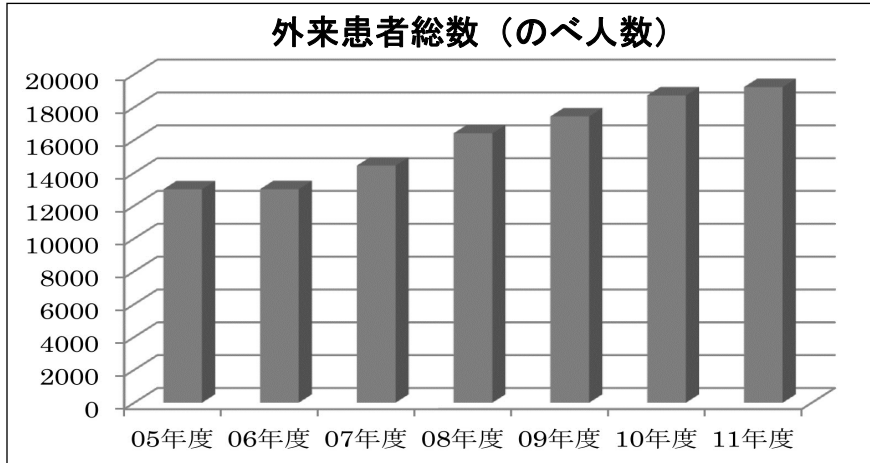
現在まで遺伝性非ポリポーシス大腸癌（HNPCC）、リンチ症候群の定義には混乱がありました。「リンチ症候群と遺伝性非ポリポーシス大腸癌は同一疾患である。Amsterdam 基準 II（1999）あるいは改定ベセスダガイドライン（2004）からリンチ症候群が疑われる患者をスクリーニングし、原因遺伝子の生殖細胞系列変異の同定により確定診断される。」が現在世界中で広く認識されている疾患概念です。前委員長岩間先生のもとで遺伝性大腸癌診療ガイドラインが本年7月に発刊予定です。大腸癌が御専門でない先生方も、是非一読いただければと思います。

当委員会の活動に、関連施設の先生方および教室員の協力をお願いすることもあると思います。その節は是非よろしくお願い致します。

診療実績

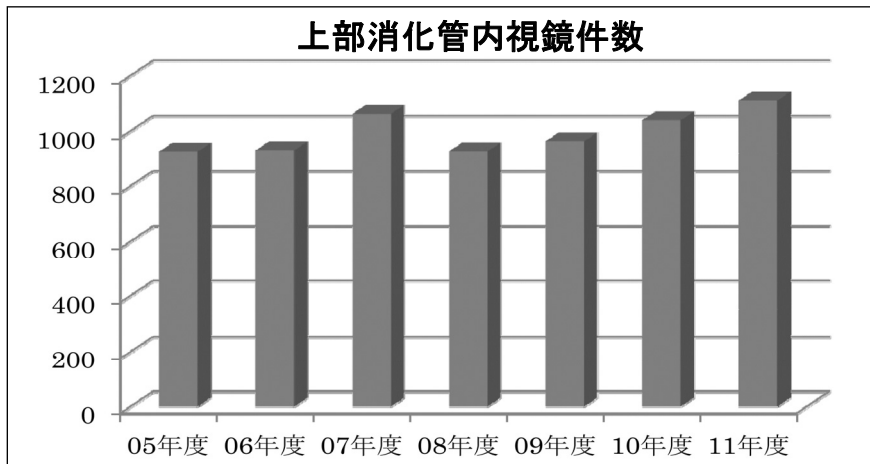
1) 外来

① 外来患者総数



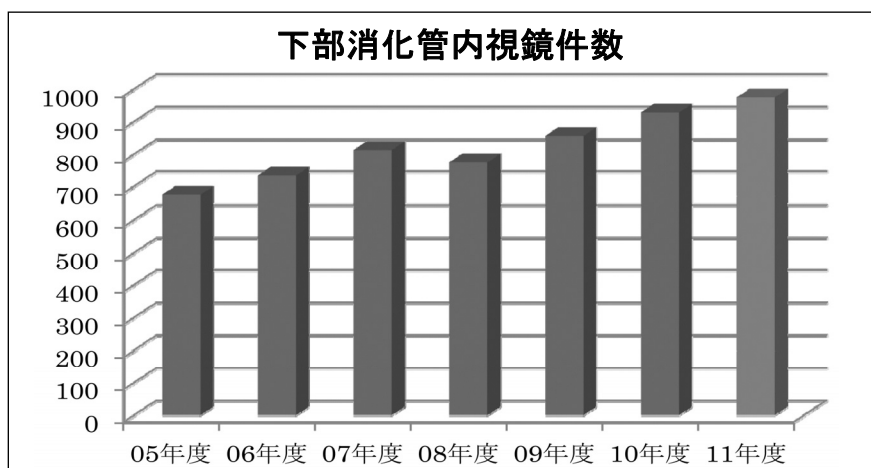
05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
13000	13008	14444	16413	17442	18718	19229

② 上部消化管内視鏡件数



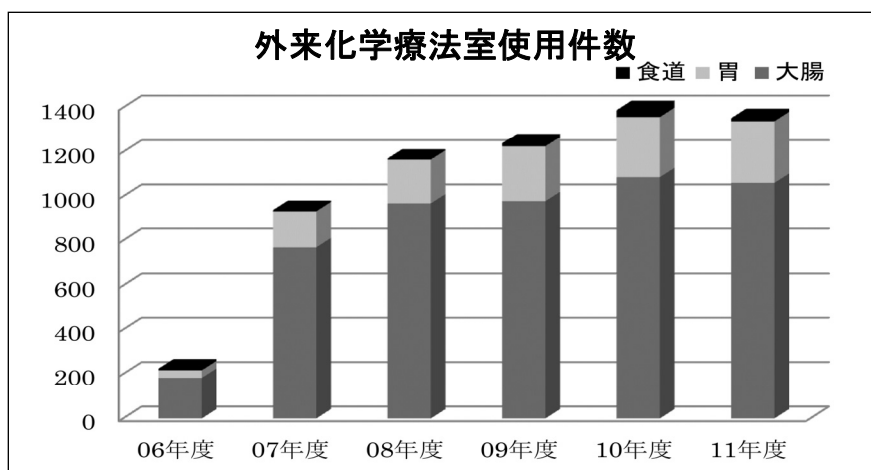
	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
件数	925	930	1063	926	963	1039	1110
EMR・ESD	3	6	6	10	5	0	7
PEG	7	11	25	34	39	32	36
ブジー	1	10	2	3	5	6	25

③ 下部消化管内視鏡件数



	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
件数	675	734	814	776	857	929	975
ポリペク	112	68	36	46	41	36	42
EMR	13	52	80	72	87	98	103

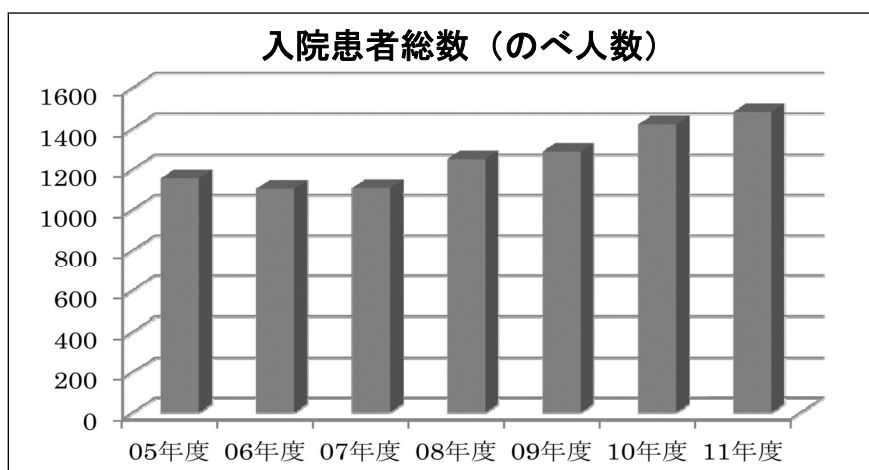
④ 外来化学療法室使用件数



	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
大腸	183	770	969	979	1087	1061
胃	34	163	197	247	271	278
食道	8	6	5	14	31	14

2) 入院

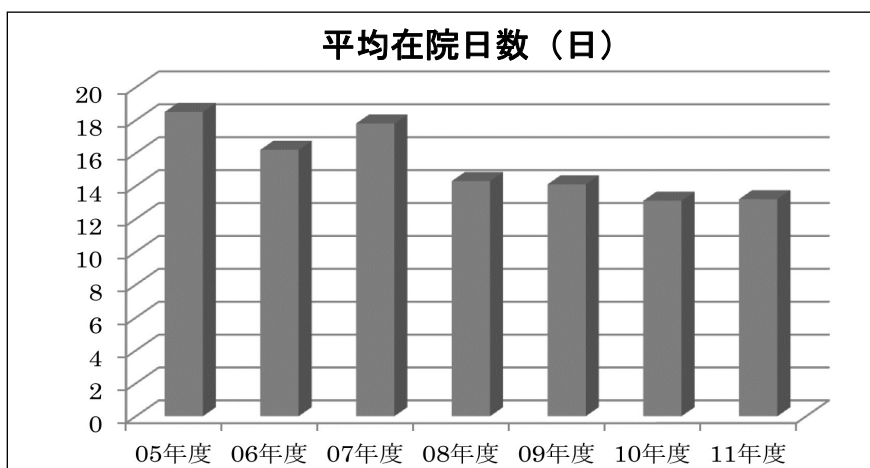
① 入院患者総数



② 入院患者の疾患内訳

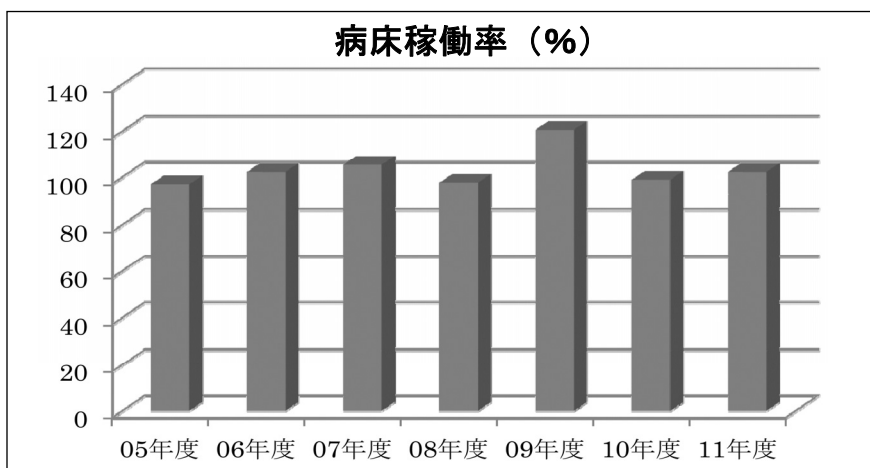
	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
入院患者総数	1156	1104	1107	1252	1289	1421	1482
(1) 食道癌	37	68	95	116	127	123	150
(2) 胃癌	154	154	169	280	282	272	277
(3) 大腸癌	206	379	265	335	362	390	383
(4) 潰瘍性大腸炎	10	7	7	8	9	12	8
(5) クロウン病	14	10	10	6	3	13	18
(6) 急性虫垂炎	87	68	83	71	90	87	97
(7) 鼠径ヘルニア	107	129	110	112	115	102	153
(8) 内痔核	9	17	10	4	45	58	69

③ 平均在院日数



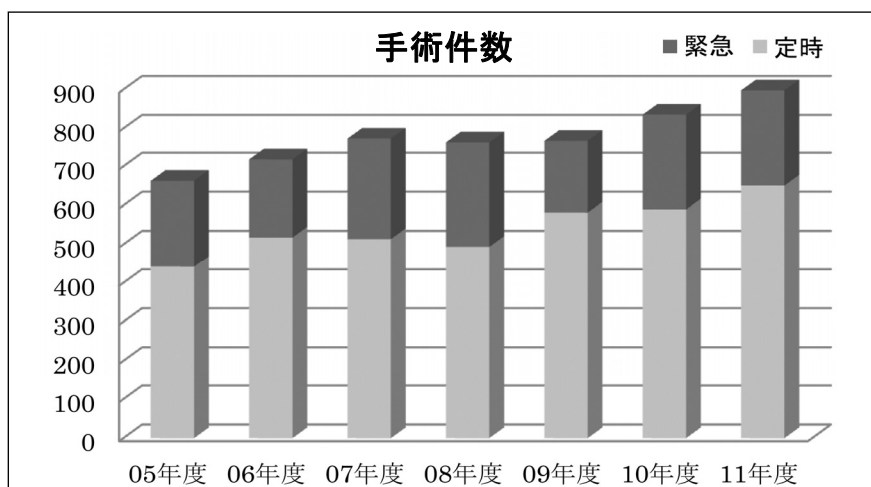
05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
18.5	16.2	17.8	14.3	14.1	13.1	13.2

④ 病床稼働率



05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
96.9	102.3	105.5	97.6	120.7	98.9	102.3

⑤ 手術



⑥ 主な手術の内訳

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
(1) 食道悪性腫瘍	10	22	28	19	16	13	23
(2) 胃悪性腫瘍(接合部癌含む)	104	97	103	127	101	96	104
(3) 結腸悪性腫瘍	136	126	90	104	86	96	115
(4) 直腸・肛門(管)悪性腫瘍	36	37	62	44	43	58	46
(5) 潰瘍性大腸炎	2	1	2	4	4	1	4
(6) クロウン病	7	6	7	4	5	11	5
(7) 急性虫垂炎	61	77	71	81	74	81	84
(8) 鼠径ヘルニア	107	134	109	146	119	104	152
(9) 内痔核	9	13	10	1	46	75	65
全手術数	663	718	774	764	768	836	898
緊急	221	200	260	270	186	246	247
定時	442	518	514	494	582	590	651

2011 年度手術詳細

食道悪性 23			
食道癌		内視鏡的粘膜下層剥離術	3
		右開胸開腹食道亜全摘術	17
		左開胸開腹下部食道胃噴門部切除術	1
		食道抜去	1
		試験開胸	1
胃・十二指腸良性 15			
胃潰瘍穿孔		単純閉鎖・大網充填術	3
胃破裂		胃全摘術	1
十二指腸潰瘍穿孔		単純閉鎖・大網充填術	5
狭窄（潰瘍など）		バイパス術	6
胃悪性 110			
食道胃接合部癌	4	右開胸胸部食道亜全摘噴門部切除術	2
		左開胸開腹下部食道胃全摘術	1
		胃全摘術	1
胃癌	100	幽門側胃切除術	57（鏡視下17）
		噴門側胃切除術	3
		胃全摘術	24
		残胃全摘術	3
		右開胸胸部食道亜全摘噴門部切除術	1
		左開胸開腹下部食道胃全摘術	2
		臍頭十二指腸切除術	1
		内視鏡的粘膜下層剥離術	1
		胃空腸吻合術	5
		試験開腹術	1
		審査腹腔鏡	2
胃 GIST	3	胃部分切除術	2（鏡視下1）
		幽門側胃切除術	1
胃悪性リンパ腫	3	胃全摘術	2
		胃空腸バイパス術	1
小腸良性 14			
上腸間膜動脈血栓症		小腸部分切除術	1
上腸間膜動脈症候群		胃空腸バイパス術	1
腸重積（メッケル憩室）		小腸部分切除術	1

小腸アニサキス症	小腸部分切除術	1
その他		10
小腸悪性 4		
小腸 GIST	小腸部分切除術	1
空腸癌	小腸部分切除術	2
小腸悪性リンパ腫	小腸部分切除術	1
イレウス 31		
虫垂炎 84		
	虫垂切除術	79
	回盲部切除術	5 (鏡視下 1)
炎症性腸疾患 9		
潰瘍性大腸炎 4	大腸全摘・回腸囊肛門管吻合術	2
	結腸全摘・回腸人工肛門造設術	1
	腹会陰式直腸切断術	1
クローン病 5	S 状結腸切除術	1
	右半結腸切除術	1
	回盲部切除術	2
	小腸部分切除術	1
家族性大腸腺腫症 2	大腸全摘・回腸囊肛門管吻合術	1 (鏡視下 1)
	経肛門的直腸腫瘍切除術	1
大腸良性 23		
大腸憩室症		10
その他		13
結腸悪性 120		
結腸癌 117	回盲部切除術	11 (鏡視下 4)
	右結腸切除術	1
	結腸右半切除術	19 (鏡視下 2)
	横行結腸切除術	5 (鏡視下 1)
	左結腸切除術	3 (鏡視下 1)
	結腸左半切除術	7
	S 状結腸切除術	38 (鏡視下 5)
	前方切除術	14
	結腸亜全摘術	1
	結腸部分切除術	5
	結腸全摘・回腸人工肛門造設術	1
	ハルトマン手術	8

	人工肛門造設術	2
腹膜偽粘液腫 3	結腸右半切除術	1
	回盲部切除術	2
直腸悪性・肛門（管）悪性 48		
直腸癌 45	超低位前方切除術	4
	低位前方切除術	20
	ISR（内肛門括約筋切除術）	2
	腹会陰式直腸切断術	6
	腹仙骨式直腸切断術	1
	ハルトマン手術	6
	経肛門的腫瘍摘出術	3
肛門管癌 1	腹会陰式直腸切断術	1
カルチノイド 2	超低位前方切除術	1
	経肛門的腫瘍摘出術	1
肛門良性 91		
内痔核		65
痔瘻		19
肛門ポリープ		4
直腸脱		1
粘膜脱症候群		1
肛門狭窄		1
肝転移切除 9		
大腸癌肝転移（同時性）		5
大腸癌肝転移（異時性）		4
鼠径部ヘルニア 152		
鼠径ヘルニア		147
大腿ヘルニア		5
腹壁癒痕ヘルニアほか 30		
腹壁癒痕ヘルニア		17
白線ヘルニア		3
臍ヘルニア		6
閉鎖孔ヘルニア		3
尿管遺残		1
その他 204		

（重複 4 例）

手術指導

2011年7月11日

群馬大学 病態総合外科学教授 桑野博行先生

右開胸開腹食道亜全摘術

2012年2月29日

東京医科歯科大学 食道・一般外科学教授 河野辰幸先生

右開胸開腹食道亜全摘術

2012年3月26日

福島県立医科大学 器官制御外科学主任教授 竹之下誠一先生

難治性複雑痔瘻根治術

当科における診療・研究・教育

代表的疾患に対する治療方針

食道癌：癌の stage、年齢、全身状態を総合的に評価し、治療法（内視鏡、手術、化学療法、放射線療法など）を決定しています。治療法の決定に当たっては放射線科医、消化器科医と定期的にカンサーボードを開催し、最善の治療を提供するよう心がけております。手術治療は右開胸・3領域郭清を原則としており、化学放射線治療後のサルベージ手術も行っております。また、当科における食道癌の患者様は、高度進行癌、高齢者、併存症の合併する方も多いため、化学放射線療法もしくは放射線単独療法の治療も治療法の大きな柱と考えております。こちらも近年の化学放射線療法や栄養療法の進歩により、生存期間の延長が図られつつあり、さらなる成績の向上に努めております。

胃癌：早期胃癌に対し腹腔鏡補助下幽門側手術を行っていましたが、適応を少しずつ広げており T2 胃癌や、胃全摘にも腹腔鏡下手術を行っております。T3 以上の進行胃癌では開腹による切除を原則としていますが、予後が不良とされる 4 型進行胃癌などに対しては術前化学療法を行っております。切除不能・再発胃癌に対しては集学的治療の一環としての姑息手術、減量手術などの観血的治療や抗癌剤治療などの選択肢の中から、最適な治療法を単独あるいは組み合わせで行っております。またがん集学的治療研究財団の臨床試験「治癒切除不能な進行・再発胃癌症例における HER2 の検討 ―観察研究―」に参加し HER2 が陽性かを正確に診断しています。現在、この試験は登録終了となっておりますが、70 歳未満の HER2 陽性例には積極的に XP+ハーセプチンを施行しています。その他の根治切除不能胃癌に対する標準レジメンは、S-1+シスプラチン療法ですが、高齢者に対する安全性、有効性が確立されておらず、当科で計画した「高齢者における切除不能進行胃癌に対する S-1+レンチナン併用療法の第 II 相試験」のような新たな試みも行っております。

大腸癌：結腸癌に対する腹腔鏡補助下手術に代替し得る小切開手術（創の長さ：5-7cm）はすでに 300 例を超える経験があります。小切開手術は創痛が少なく、整容性にすぐれ、手術時間が腹腔鏡補助下手術より遥かに短縮でき、術後回復も早い点が利点であり、治癒切除可能な大部分の結腸癌に対し行うことができます。Stage II/III が疑われる進行結腸癌に対しては、小切開手術を第 1 選択として参りましたが、今年度より、腹腔鏡補助下大腸切除術に熟練した医師を迎えたため、左側結腸癌、直腸癌に対する腹腔鏡補助下大腸切除術を導入しております。また、stage I まで、あるいは腫瘍径が小さいより進行した結腸癌が疑われる場合には、単孔式腹腔鏡補助下大腸切除を導入しています。臍周囲に弧状切開をおく当科で独自に考案した方法ですが、安全性にすぐれ、現在のところ満足の行く成績が得られています。歯状線近くの下部直腸進行癌に対しても根治性を損なうことなく肛門を温存する超低位

前方切除術あるいは括約筋間切除術も積極的に取り入れており、患者さんの満足度も高いと考えております。近年の化学療法の著しい進歩により、stage IV あるいは再発大腸癌の成績は飛躍的に向上しています。FOLFOX (XELOX)、FOLFIRI 療法に適宜分子標的薬を併用しています。全国的にみて、外科系診療科のなかでは当科の治療件数はきわめて多く、新知見を内外に発信しています。最近では化学療法後の肝転移切除例も増加しています。癌治療や外科感染症に関する多くの多施設共同臨床試験に参加、あるいは当科独自に計画し、標準化されていない治療法に関し、常に質の向上を目指しています。

岩間客員教授の着任以降、当科が家族性大腸腺腫症の東日本における患者会の事務局になっており、また、本年 1 月より、石田教授が大腸癌研究会家族性大腸癌委員会委員長をつとめているため、その事務局も当科医局に移管いたしました。このため、家族性大腸腺腫症の患者・家族の外来受診が増加しつつあります。密生型に対しては大腸全摘・直腸粘膜切除、回腸囊肛門吻合、あるいは回腸囊肛門管吻合などの標準術式を原則的に腹腔鏡補助下で行っています。

炎症性腸疾患：潰瘍性大腸炎、クローン病に対する内科的治療抵抗症例、緊急症例は当科で診療しています。潰瘍性大腸炎に対しては家族性大腸腺腫症と同様に肛門温存大腸全摘術を、クローン病に対しては病変に応じて腸管の切除や狭窄形成術などを行っています。

肛門疾患：肛門疾患の大半の痔核に対する簡便で安全な ALTA 硬化療法が保険収載され、2009 年から当科でも導入しています。当院の特性上様々な併存疾患を有する症例にも施行していますが、重篤な合併症もなく良好な成績を得ています。この治療は、日本大腸肛門病学会の認定施設で修練した医師が、内痔核治療法研究会で認定された一定の知識と技術を習得して行います。

穿孔性腹膜炎：胃・十二指腸潰瘍穿孔に対しては、術前の臨床所見や CT での腹水量から治療方針を決定しています。大部分の手術症例では低侵襲性手術としての小切開手術を選択しています。予後不良な大腸穿孔に対しては、迅速かつ確実な手術に心がける一方、SSCG (Surviving sepsis campaign guidelines) に準拠した集中治療のほかに、重症例ではポリミキシン B 固定化カラムによる直接血液灌流法やリコンビナント・トロンボモジュリンの投与などを含めた集学的治療を行い、予後の改善に努めています。

鼠径ヘルニア：原則的に tension free 法を採用し、外鼠径ヘルニアには Mesh plug 法、Lichtenstein 法、内鼠径ヘルニアには UHS (PHS) 法などを行っています。今までは水曜日の手術が多かったのですが、現在は、土曜日手術枠の新設に伴い金曜日入院、土曜日手術が多くなっています。

研究

当科は、日常臨床で多数の消化管悪性腫瘍の治療に努めています。食道癌、胃癌、大腸癌などの消化管悪性腫瘍を中心に診療を通じて蓄えられた貴重な臨床的データと、患者様からインフォームドコンセントを経て得られた貴重な検体を活用して、日々研究に取り組み、新しい知見を追及しています。当科の研究室では、すでに遺伝子レベルの研究を迅速にすすめる体制づくりができており、発癌に関わる遺伝子群の探索から始まり、癌関連遺伝子の遺伝子多型の解析、抗癌剤の治療効果予測因子となる遺伝子群や予後因子となる遺伝子群の検索など、癌の診断や治療にフィードバックできる臨床と基礎の架け橋になるような研究に取り組んでおります。昨年度から、リンチ症候群に関する基礎的研究にも力を注いでおります。このような環境で優れた臨床医の育成と並行し、一時期でも基礎研究に従事し医学博士を志す若い教室員が増えてきました。今後、着実に成果をあげて、世界に向けて発信していけるよう努めて参ります。

教育

本学の医学部学生臨床実習は5年生が5～6人1組の実習組ごとに各科をローテーションします。消化器外科は各組の学生が附属病院または国際医療センターと、総合医療センターに分かれて実習しています。

当科には常に2～3名の学生が実習することとなり、各学生はなるべく希望臓器に従ってチームに1名ずつ配属され、手術を中心に検査、カンファレンス、回診などに参加してもらい、チームの一員として実地臨床の経験を積めるよう配慮しています。各講義としては、結紮・鏡視下手術トレーニングボックスのほか、手術ビデオ供覧、課題解説・総括のほか、岩間毅夫客員教授による家族性大腸癌の講義が行われています。

また、初期研修の教育にも力を入れており、研修期間中に、外科の基本手技である鼠径ヘルニアを指導医のもと、術者として必ず経験してもらっています。さらに、貴重な症例があった場合には、学会発表、論文作成の機会を与えるようにしています。

教育・カンファレンス

クリニカルカンファレンス

日時	チーム	題名
2011/05/25	黄	繰り返す出血のため切除術を施行した胃 AVM の 1 例
2011/06/01	紫	直腸癌手術における closed suction drain
2011/06/29	緑	当科における NOMI (non occlusive mesenteric ischemia) 症例のまとめ
2011/10/18	黄	食餌性イレウスの 1 例
2011/10/26	緑	Stage I 大腸癌における再発転移症例の検討
2012/01/25	青	腹部大動脈瘤置換術術後に発症した heterotopic mesenteric ossification (HMO) の 1 例
2012/02/22	黄	胃悪性リンパ腫の検討
2012/03/07	緑	大腸癌胃・小腸転移の 1 例

抄読会

- 2011/4/6 本城 Risk factors for development of benign cervical strictures after esophagectomy.
Ann Surg 2010; 251: 1064-1069
- 2011/04/13 近谷 Diagnostic transgastric endoscopic peritoneoscopy: extension of the initial human trial for staging of pancreatic head masses.
Surg Endosc 2010; 24: 1440-1446
- 2011/4/27 安藤 Targeting the p38 MAPK pathway inhibits irinotecan resistance in colon adenocarcinoma.
Cancer Res 2011; 71: 1041-1049
- 2011/04/27 平岡 Negative appendectomy: a 10-year review of a nationally representative sample.
Am J Surg 2011; 201: 433-437
- 2011/05/23 石橋 Does colon cancer ever metastasize to bone first? a temporal analysis of colorectal cancer progression.
BMC Cancer 2009; 9: 274 doi: 10.1186/1471-2407-9-274
- 2011/05/25 隈元 DNA mismatch repair status and colon cancer recurrence and survival in clinical trials of 5-Fluorouracil-based adjuvant therapy.
J Natl Cancer Inst 2011; 103: 863-875
- 2011/06/01 岡田 Nintendo Wii video-gaming ability predicts laparoscopic skill.
Surg Endosc 2010; 24: 1824-1828
- 2011/06/08 大澤 Surgical resection for lung metastases from colorectal cancer.
J Korean Soc Coloproctol 2010; 26: 354-358

- 2011/06/15 傍島 Long-term effect of aspirin on colorectal cancer incidence and mortality: 20-year follow-up of five randomised trials. *Lancet* 2010; 376: 1741-1750
- 2011/06/22 桑原 Enteral nutrition enriched with eicosapentaenoic acid (EPA) preserves lean body mass following esophageal cancer surgery: results of a double-blinded randomized controlled trial. *Ann Surg* 2009; 249: 355-363
- 2011/07/06 天野 Colorectal cancer complicating inflammatory bowel disease: a comparative study of Crohn's disease vs ulcerative colitis in 34 patients. *Colorectal Dis* 2011; 13: 684-688
- 2011/10/05 幡野 Anastomotic leakage contributes to the risk for systemic recurrence in stage II colorectal cancer. *J Gastrointest Surg* 2011; 15: 120-129
- 2011/10/19 石畝 Pneumatic dilation versus laparoscopic Heller's myotomy for idiopathic achalasia. *N Engl J Med* 2011;364:1807-1816
- 2011/11/09 小野 The alcohol flushing response: an unrecognized risk factor for esophageal cancer from alcohol consumption. *PLoS Med* 2009; 6: e50
- 2011/11/16 今泉 Thymidylate synthase as a prognostic biomarker for locally advanced rectal cancer after multimodal treatment. *Ann Surg Oncol* 2011; 18: 2442-2452
- 2011/11/30 田島 Comparison of ligasure hemorrhoidectomy with conventional Ferguson's hemorrhoidectomy. *Indian J Surg* 2010; 72: 294-297

- 2011/12/07 本城 Amoxicillin plus clavulanic acid versus appendicectomy for treatment of acute uncomplicated appendicitis: an open-label, non-inferiority, randomised controlled trial. *Lancet* 2011; 377: 1573-1579
- 2012/01/18 熊谷 The onset of angiogenesis in a multistep process of esophageal squamous cell carcinoma. *Front Biosci* 2009; 14: 3872-3878
- 2012/01/25 石橋 Role of pregabalin in treatment of oxaliplatin-induced sensory neuropathy. *Anticancer Res* 2010; 30: 2927-2933
- 2012/02/01 隈元 Log odds of positive lymph nodes in colon cancer: A meaningful ratio-based lymph node classification system. *World J Surg* 2012; 36: 667-674
- 2012/02/15 岡田 Standard laparoscopic versus single-incision laparoscopic colectomy for cancer: Early results of a randomized prospective study. *Am J Surg* 2011, Dec 16. (Epub ahead of print)
- 2012/02/23 大澤 Randomized controlled trial of bipolar diathermy vs ultrasonic scalpel for closed hemorrhoidectomy. *World J Gastrointest Surg* 2011; 3: 147-15

総説・解説

1. 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
大腸癌における分子標的治療 a) 切除不能大腸癌における分子標的治療.
外科 73 : 243-251, 2011
2. 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
FOLFOX 療法の治療効果予測因子の探索 (TS, ERCC1 など).
日本臨床 69 : 494-499, 2011
3. 岩間毅夫, 石田秀行.
遺伝性大腸癌: 家族性大腸腺腫症, *MUTYH* 関連ポリポーシス, およびリンチ症候群.
日本臨床 大腸癌—最新の研究動向 69 : 59-64, 2011
4. 石田秀行, 桑原公亀, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎.
緊急手術の適応と手術手技の実際 大腸穿孔.
消化器外科 34 : 1639-1647, 2011
5. 石田秀行.
トピックス リンチ症候群の診断.
日本外科系連合学会会誌 37 : 149-150, 2012
6. 石橋敬一郎, 岡田典倫, 石畝 亨, 桑原公亀, 傍島 潤, 大澤智徳, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
切除不能・進行再発大腸癌 2次治療における bevacizumab 投与.
日本外科系連合学会誌 37 : 176-182, 2012

学術論文（英文誌）

原著

1. Ishida H, Ishiguro T, Okada N, Kumamoto K, Ishibashi K, Miyazaki T, Haga N.
Experience of distal gastrectomy by minilaparotomy with laparoscopic-assistance for nonoverweight patients with T1N0-1 gastric cancer.
Int Surg 96:104-110, 2011
2. Ishida H, Ishiguro T, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Ishibashi K, Haga N, Yokoyama M, Nakada H, Gonda T.
Oncologic outcome of stages II/III colon cancer treated via minilaparotomy.
Int Surg 96:127-134, 2011
3. Ishibashi K, Okada N, Ohsawa T, Kumamoto K, Haga N, Ishida H.
A simple and safe technique for performing single-port laparoscopic resection of appendiceal mucocele.
Tech Coloproctol 15:341-343, 2011
4. Ishida H, Ishiguro T, Ishibashi K, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Haga N.
Curative resection of transverse colon cancer via minilaparotomy.
Int Surg 96:6-12, 2011
5. Sobajima J, Kumamoto K, Haga N, Tamaru J, Takahashi T, Miyazaki T, Ishida H.
Early evaluation of the apoptotic index ratio is useful in predicting the efficacy of chemoradiotherapy in esophageal squamous cell carcinoma.
Oncol Lett 3:287-292, 2012
6. Ishida H, Ishiguro T, Kumamoto K, Ohsawa T, Sobajima J, Ishibashi K, Haga N.
Minilaparotomy for perforated duodenal ulcer.
Int Surg 96:194-200, 2011
7. Tajima Y, Ishida H, Ohsawa T, Kumamoto K, Ishibashi K, Haga N, Osada H.
Three-dimensional vascular anatomy relevant to oncologic resection of right colon cancer.
Int Surg 96:300-304, 2011

8. Kumamoto K, Kuwabara K, Tajima Y, Amano K, Hatano S, Ohsawa T, Okada N, Ishibashi K, Haga N, Ishida H.
Thymidylate synthase and thymidine phosphorylase mRNA expression in primary lesions using laser capture microdissection is useful for prediction of the efficacy of FOLFOX treatment in colorectal cancer patients with liver metastasis.
Oncol Lett 3:983-989, 2012
9. Watanabe T, Itabashi M, Shimada Y, Tanaka S, Ito Y, Ajioka Y, Hamaguchi T, Hyodo I, Igarashi M, Ishida H, Ishiguro M, Kanemitsu Y, Kokudo N, Muro K, Ochiai A, Oguchi M, Ohkura Y, Saito Y, Sakai Y, Ueno H, Yoshino T, Fujimori T, Koinuma N, Morita T, Nishimura G, Sakata Y, Takahashi K, Takiuchi H, Tsuruta O, Yamaguchi T, Yoshida M, Yamaguchi N, Kotake K, Sugihara K; Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum.
Japanese society for cancer of the colon and rectum (JSCCR) guidelines 2010 for the treatment of colorectal cancer.
Int J Clin Oncol 17:1-29, 2012
10. Ishida H, Hatano S, Ishiguro T, Kumamoto K, Ishibashi K, Haga N.
Prediction of lateral lymph node metastasis in lower rectal cancer: Analysis of paraffin-embedded section.
Jpn J Clin Oncol 42:485-490, 2012
11. Ono C, Iwama T, Kumamoto K, Ishida H.
A simple technique for repair of distal limb prolapsed of a loop colostomy.
Tech Coloproctol 16:255-256, 2012
12. Ishibashi K, Kumamoto K, Kuwabara K, Hokama N, Ishiguro T, Ohsawa T, Okada N, Miyazaki T, Yokoyama M, Tsuji Y, Haga N, Ishida H.
Usefulness of sennoside as an agent for mechanical bowel preparation prior to elective colon cancer surgery.
Asian J Surg 35:81-87, 2012
13. Inoue N, Ishida H, Sano M, Kishino T, Okada N, Kumamoto K, Ishibashi K.
Discrepancy between the NCI-CTCAE and DEB-NTC scales in the evaluation of oxaliplatin-related neurotoxicity in patients with metastatic colorectal cancer.
Int J Clin Oncol, 2012 (online)

14. Iseki H, Takeda A, Andoh T, Kuwabara K, Takahashi N, Kurochkin IV, Ishida H, Okazaki Y, Koyama I.
ALEX1 suppresses colony formation ability of human colorectal carcinoma cell lines.
Cancer Sci, 2012 (online)
15. Ishida H, Ishibashi K, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Haga N.
Significance of hepatic lymph node metastasis in patients with unresectable synchronous liver metastasis of colorectal cancer.
Int Surg 96:291-299, 2011
16. Haga N, Ishida H, Ishiguro T, Kumamoto K, Ishibashi K, Tsuji Y, Miyazaki T.
A prospective randomized study to assess the optimal duration of intravenous antimicrobial prophylaxis in elective gastric cancer surgery.
Int Surg, 2012 (in press)
17. Ono T, Ishida H, Kumamoto K, Okada K, Ishibashi K.
Outcome in disappearing colorectal cancer liver metastasis during oxaliplatin-based chemotherapy.
Oncol Lett, 2012 (in press)
18. Tsutsumi S, Ishibashi K, Uchida N, Ojima H, Hosouchi Y, Yasuda N, Kigre W, Asao T, Ishida H, Kuwano H.
Phase II trial of chemotherapy plus bevacizumab (BV) as second-line therapy for patients with metastatic colorectal cancer (mCRC) that progressed on BV with chemotherapy: SILK study.
Oncol, 2012 (in press)

学術論文（和文）

原著

1. 森ひろみ, 崎元雄彦.
NST 介入患者における DPC 下での TPN と EN の栄養管理に関するコスト差の比較.
臨床栄養 118 : 409-415, 2011
2. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 傍島 潤, 桑原公亀, 石畝 亨, 天野邦彦, 幡野 哲, 外間尚子, 田島雄介, 伊藤徹哉, 近谷賢一, 本城裕章, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
結腸癌内視鏡的切除後の単孔式結腸切除術.
Progress of Digestive Endoscopy 78 : 142-143, 2011
3. 桑原公亀, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸穿孔術後の在院死を予測する因子のロジスティック回帰分析.
日本外科感染症学会雑誌 8 : 279-284, 2011
4. 田島雄介, 石橋敬一郎, 岡田典倫, 土屋長二, 上野秀樹, 原 彰男, 遠藤正人, 石川文彦, 前田 徹, 関田吉久, 湖山信篤, 石原 斌, 遠藤 健, 廣瀬哲也, 朴 英智, 大澤俊也, 新田真吾, 富塚龍也, 黒田 徹, 松本力雄, 山田博文, 佐藤精一, 村上哲朗, 横山 勝, 鈴木 毅, 奈良橋喜芳, 宮川隆平, 國富道人, 堤 謙二, 安江英晴, 二川康郎, 貴島章徳, 石田秀行.
埼玉県北西部地域における結腸癌術後補助化学療法—アンケート調査報告—.
埼玉県医学会雑誌 46 : 41-45, 2011
5. 本城裕章, 石橋敬一郎, 岡田典倫, 田島雄介, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 隈元謙介, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
大腸癌肝転移切除後 mFOLFOX6 療法の治療成績—同時性, 異時性を比較して—.
癌と化学療法 38 : 2216-2219, 2011
6. 近谷賢一, 石橋敬一郎, 田島雄介, 幡野 哲, 天野邦彦, 石畝 亨, 桑原公亀, 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
切除不能大腸癌同時性肝転移における mFOLFOX6 療法の効果.
癌と化学療法 38 : 2211-2213, 2011

7. 小野朋二郎, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
mFOLFOX6 療法により消失した大腸癌肝転移病巣の再増大に対する検討.
癌と化学療法 38 : 2214-2215, 2011
8. 芳賀紀裕, 宮崎達也, 石畝 亨, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
高リスク Non-T4, Stage II, III 食道癌治療法の選択と治療成績.
癌と化学療法 38 : 2381-2384, 2011
9. 田島雄介, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 辻 美隆,
芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
大腸癌肝転移切除症例における肝所属リンパ節転移の検討.
癌と化学療法 38 : 2228-2231, 2011
10. 桑原公亀, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 岡田典倫, 石畝 亨, 大澤智徳, 芳賀紀裕,
三浦一郎, 石田秀行.
切除不能進行再発大腸癌に対する mFOLFOX6 の治療効果と TS, DPD, TP,
ERCC-1 蛋白発現の検討.
癌と化学療法 38 : 2224-2227, 2011
11. 石橋敬一郎, 岡田典倫, 田島雄介, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 隈元謙介,
辻 美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行, 小野内常子, 屋嘉比康治.
原発巣の mRNA 発現からみた切除不能大腸癌肝転移に対する mFOLFOX6 療法
の効果予測.
癌と化学療法 38 : 2220-2223, 2011
12. 石畝 亨, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 横山 勝, 辻 美隆,
芳賀紀裕, 石田秀行.
術中小腸内視鏡の工夫.
埼玉県医学会雑誌 46 : 349-352, 2012
13. Ishibashi K, Okada N, Kumamoto K, Ohsawa T, Haga N, Ishida H.
Single-incision laparoscopically-assisted colectomy for mucinous cystadenoma of the
appendix : report of a case.
日本外科系連合学会誌 36 : 665-669, 2011

症例報告

1. 石井正嗣, 辻 美隆, 近 範泰, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
横行結腸癌・多発肝転移に mFOLFOX6+bevacizumab 療法が著効した家族性大腸線種症の 1 例.
埼玉県医学会雑誌 45 : 302-306, 2011
2. 近 範泰, 辻 美隆, 石橋敬一郎, 石井正嗣, 大澤智徳, 田島雄介, 桑原公亀, 岡田典倫, 横山 勝, 隈元謙介, 権田 剛, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸癌術後の経過観察中に血清 CA19-9 高値を呈した巨大肝嚢胞の 1 例.
埼玉県医学会雑誌 45 : 307-310, 2011
3. 宮崎達也, 芳賀紀裕, 石畝 亨, 石橋敬一郎, 糸山進次, 桑野博行, 石田秀行.
腹腔鏡視下に摘出した後腹膜原発粘液性嚢胞腺腫の 1 例.
日本臨床外科学会雑誌 72 : 2134-2138, 2011
4. 田島雄介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石畝 亨, 横山洋三, 隈元謙介, 宮崎達也, 石田秀行.
胃切除後に低蛋白血症が速やかに改善した高齢者若年性ポリポーシスの 1 例.
日本外科系連合学会誌 36 : 635-640, 2011
5. 伊藤徹哉, 石橋敬一郎, 田島雄介, 幡野 哲, 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
鼠径リンパ節転移陽性の Pagetoid Spread を伴う pSM 肛門管癌の 1 例.
癌と化学療法, 38 : 2274-2276, 2011
6. 横山 勝, 浦川雅己, 村上哲朗, 天野邦彦, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
超高齢者切除不能進行直腸癌に対して mFOLFOX6+Bevacizumab が著効した 1 例.
癌と化学療法 38 : 2241-2243, 2011
7. 石井正嗣, 辻 美隆, 近 範泰, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
横行結腸癌・多発肝転移に mFOLFOX6+bevacizumab 療法が著効した家族性大腸腺腫症の 1 例.
埼玉県医学会誌 45 : 302-306, 2011

8. 石畝 亨, 石橋敬一郎, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行, 田丸淳一, 加藤真吾, 屋嘉比康治.
切除範囲の決定に術中内視鏡が有用であったびまん性小腸動静脈奇形の1例.
日本外科系連合学会誌 36 : 802-807, 2011
9. 三浦恵美, 隈元謙介, 石井正嗣, 幡野 哲, 大澤智徳, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 加藤真吾, 屋嘉比康治, 東 守洋, 田丸淳一, 石田秀行.
治癒切除し得た潰瘍性大腸炎合併4型直腸S状部癌の1例.
埼玉県医学会雑誌 46 : 331-335, 2012
10. 橋本昌幸, 隈元謙介, 平岡 優, 石井正嗣, 幡野 哲, 大澤智徳, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
XELOX療法による吃逆が誘引となり気道粘膜下血腫で気管切開を要した1例.
埼玉県医学会雑誌 46 : 328-330, 2012
11. 近谷賢一, 芳賀紀裕, 石橋敬一郎, 田島雄介, 石畝 亨, 隈元謙介, 熊谷洋一, 辻 美隆, 石田秀行.
手術と放射線療法が有効であった胃癌異時性脳転移の1例
日本外科系連合学会誌 37 : 70-75, 2012
12. 山本 梓, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 岡田典倫, 芳賀紀裕, 石田秀行.
ワルファリンカリウム内服中に上腸間膜静脈および門脈血栓症を認めたプロテインC欠乏症の1例
日本消化器外科学会誌, 2012 (in press)
13. 小松聖史, 隈元謙介, 今泉英子, 石井正嗣, 幡野 哲, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行
若年男子に発症し腸重積の原因となった腸管囊腫様気腫症の1例
日本消化器外科学会誌, 2012 (in press)
14. 橋本昌幸, 幡野 哲, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
小腸GISTにより腸重積をきたしたVon Reckling-Hausen病の1例.
日本外科系連合学会誌, 2012 (in press)

学会・研究会発表

国際学会

1. Suzuki O, Murata K, Fukunaga M, Takemoto H, Ohue M, Ikeda R, Wada S, Eguchi H, Tomita N, Watanabe M, Ishida H, Nishiyama M.
Exploration for possible predictive biomarkers for individual response to mFOLFOX6 in colorectal cancer patients.
American Association for Cancer Research 102nd Annual Meeting, Florida, USA, April 2-6, 2011 (Poster)
2. Haga N, Miyazaki T, Ishiguro T, Kumamoto K, Ishibashi K, Tsuji Y, Ishida H.
A prospective randomized study assessing the duration of perioperative intravenous antimicrobial prophylaxis in elective gastric cancer surgery.
9th International Gastric Cancer Congress, Seoul, Korea, April 20-23, 2011 (Poster)
3. Ishiguro T, Haga N, Kuwabara K, Hatano S, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Ishibashi K, Tsuji Y, Ishida H.
Evaluation of the prognostic factors for non-curative gastric cancer.
9th International Gastric Cancer Congress, Seoul, Korea, April 20-23, 2011 (Poster)
4. Kuwabara K, Ishiguro T, Haga N, Hatano S, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Ishibashi K, Tsuji Y, Ishida H.
Glasgow prognostic score and performance status as the prognostic factors for non-curative gastric cancer.
9th International Gastric Cancer Congress, Seoul, Korea, April 20-23, 2011 (Poster)
5. Tsuji Y, Ishiguro T, Kumamoto K, Ishibashi K, Haga N, Ishida H.
The evaluation of immunological factors with S-1/lentinan treatment for elderly patients with non-curative gastric cancer.
9th International Gastric Cancer Congress, Seoul, Korea, April 20-23, 2011 (Poster)
6. Ishibashi K, Ishida H, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Haga N.
Significance of hepatic lymph node metastasis in patients with unresectable synchronous liver metastasis of colorectal cancer.
57th Annual Congress of the Japan Section of the International Collage of Surgons, Nagoya, Japan, June 25, 2011 (Oral)

- Ishibashi K, Koda K, Oshiro M, Matsuoka H, Baba H, Ishida H, Katoh R, Maeda K, Hamada C, Sakamoto J.
CRAFT trial- Results from multicenter phase II study of modified FOLFOX7 (combination chemotherapy of infusional 5-FU/I-leucovorin and intermittent oxaliplatin) with bevacizumab in the first-line therapy of colorectal cancer.
The 2011 European Society for Medical Oncology, Stockholm, Sweden, September 23-27, 2011 (Poster)

国内学会・研究会

- 石橋敬一郎, 岡田典倫, 田島雄介, 幡野 哲, 天野邦彦, 石畝 亨, 桑原公亀, 傍島 潤, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
切除不能・再発大腸癌における1次治療 mFOLFOX6 療法の有害事象と遺伝子多型の検討.
第111回日本外科学会定期学術集会, 2011.5.25 (紙上開催)
- 石畝 亨, 大澤智徳, 伊藤徹哉, 本城裕章, 天野邦彦, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
胃癌手術における SSI の危険因子: 抗菌薬投与期間を検討した RCT の結果から.
第111回日本外科学会定期学術集会, 2011.5.25 (紙上開催)
- 天野邦彦, 石橋敬一郎, 本城裕章, 外間尚子, 幡野 哲, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
直腸癌切除手術における縫合不全の危険因子と予防的ドレーン留置の意義.
第111回日本外科学会定期学術集会, 2011.5.25 (紙上開催)
- 岡田典倫, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 傍島 潤, 桑原公亀, 天野邦彦, 幡野 哲, 田島雄介, 本城裕章, 伊藤徹哉, 平岡 優, 近谷賢一, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
FOLFOX, FOLFIRI の治療効果と大腸癌組織中 VEGF, DPD, PynPase 濃度.
第111回日本外科学会定期学術集会, 2011.5.25 (紙上開催)
- 隈元謙介, 石橋敬一郎, 岡田典倫, 田島雄介, 幡野 哲, 天野邦彦, 桑原公亀, 大澤智徳, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸癌における TS, ERCC1 遺伝子発現と FOLFOX 治療効果の検討.
第111回日本外科学会定期学術集会, 2011.5.25 (紙上開催)

6. 田島雄介, 石橋敬一郎, 幡野 哲, 天野邦彦, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 傍島 潤, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
切除不能大腸癌に対する mFOLFOX6 療法の治療効果予測因子の検討.
第 111 回日本外科学会定期学術集会, 2011.5.25 (紙上開催)
7. 俵 英之, 小柳和夫, 小山 勇, 小川展二, 中村純一, 石田秀行, 田中洋一, 伊藤 博, 小西文雄, 山本順司, 山口真彦, 橋本光正.
埼玉県における GIST 治療の現状—埼玉県 GIST 研究会による調査.
第 111 回日本外科学会定期学術集会, 2011.5.25 (紙上開催)
8. 近谷賢一, 石橋敬一郎, 田島雄介, 幡野 哲, 天野邦彦, 石畝 亨, 桑原公亀, 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
切除不能大腸癌・同時性肝転移における mFOLFOX6 の検討.
第 33 回日本癌局所療法研究会, 大阪, 2011.6.10 (口演)
9. 小野朋二郎, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
mFOLFOX6 療法により消失した大腸癌肝転移の再増大に対する検討.
第 33 回日本癌局所療法研究会, 大阪, 2011.6.10 (口演)
10. 本城裕章, 石橋敬一郎, 岡田典倫, 田島雄介, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 隈元謙介, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
大腸癌肝転移切除後 mFOLFOX6 療法の治療成績.
第 33 回日本癌局所療法研究会, 大阪, 2011.6.10 (口演)
11. 石橋敬一郎, 岡田典倫, 田島雄介, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 隈元謙介, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行, 小野内常子, 屋嘉比康治.
原発巣 mRNA 発現からみた切除不能大腸癌肝転移に対する mFOLFOX6.
第 33 回日本癌局所療法研究会, 大阪, 2011.6.10 (口演)
12. 桑原公亀, 石橋敬一郎, 岡田典倫, 石畝 亨, 大澤智徳, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 三浦一郎, 石田秀行.
大腸癌に対する mFOLFOX6 療法と TP/DPD/TS/ERCC-1 の蛋白発現の検討.
第 33 回日本癌局所療法研究会, 大阪, 2011.6.10 (口演)

13. 田島雄介, 石橋敬一郎, 傍島 潤, 本城裕章, 小野朋二郎, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
大腸癌肝転移切除症例における肝所属リンパ節転移の検討.
第 33 回日本癌局所療法研究会, 大阪, 2011.6.10 (口演)
14. 伊藤徹哉, 石橋敬一郎, 田島雄介, 幡野 哲, 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
鼠径リンパ節転移陽性の Pagetoid spread を伴う pSM 肛門管癌の 1 例.
第 33 回日本癌局所療法研究会, 大阪, 2011.6.10 (口演)
15. 芳賀紀裕, 宮崎達也, 石畝 亨, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
高リスク non-T4、cStage2、3 食道癌治療法の選択と治療成績.
第 33 回日本癌局所療法研究会, 大阪, 2011.6.10 (口演)
16. 横山 勝, 浦川雅巳, 村上哲朗, 天野邦彦, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
超高齢者切除不能進行直腸癌に対して m-FOLFOX6+Bev を施行した 1 例.
第 33 回日本癌局所療法研究会, 大阪, 2011.6.10 (口演)
17. 石橋敬一郎, 岡田典倫, 石畝 亨, 田島雄介, 幡野 哲, 桑原公亀, 傍島 潤, 大澤智徳, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
切除不能再発大腸癌に対する 2 次治療 FOLFIRI 療法に対する bevacizumab の上乗せ効果.
第 36 回日本外科系連合学会学術集会, 千葉, 2011.6.16-17 (シンポジウム)
18. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 傍島 潤, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
巨大虫垂粘液嚢胞腺腫を臍周囲切開 SILS にて切除しえた 1 例.
第 36 回日本外科系連合学会学術集会, 千葉, 2011.6.16-17 (ビデオセッション)
19. 伊藤徹哉, 田島雄介, 幡野 哲, 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行, 大野仁司, 長田久人.
IVR が有効であった後腹膜出血の一例.
第 36 回日本外科系連合学会学術集会, 千葉, 2011.6.16-17 (示説)

20. 石橋敬一郎, 隈元謙介, 天野邦彦, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
当科における StageIV大腸癌の治療成績の検討.
第 75 回大腸癌研究会, 東京, 2011.7.8 (口演)
21. 石橋敬一郎, 桑原公亀, 石畝 亨, 岡田典倫, 大澤智徳, 隈元謙介, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
Randomized control study の結果からみた結腸, 直腸切除に対する手術当日のみ
周術期抗菌薬短縮化の妥当性.
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (パネルディスカッション)
22. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 傍島 潤, 桑原公亀, 幡野 哲, 近谷賢一, 伊藤徹哉,
隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
臍縁を超えない Ω (オメガ) -incision による SILS colectomy.
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (ビデオ)
23. 近谷賢一, 石橋敬一郎, 田島雄介, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 辻 美隆,
芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
切除不能大腸癌同時性肝転移における mFOLFOX6 療法の検討.
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (口演)
24. 傍島 潤, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
人工肛門閉鎖法に関する randomized controlled trial (RCT) (中間報告): 閉鎖 vs
開放 (環状縫合).
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (口演)
25. 桑原公亀, 隈元謙介, 天野邦彦, 石畝 亨, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕,
石田秀行.
大腸癌における血清 p53 抗体の治療モニタリングマーカーとしての有用性の検
討.
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (口演)
26. 天野邦彦, 隈元謙介, 桑原公亀, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 石橋敬一郎,
芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸癌における血清 p53 抗体測定の実用性について.
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (口演)

27. 隈元謙介, 桑原公亀, 天野邦彦, 岡田典倫, 大澤智徳, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
転移性大腸癌に対する mFOLFOX6 の効果予測因子としての TS、ERCC1 の発現.
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (口演)
28. 小野朋二郎, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
mFOLFOX6 により消失した大腸癌肝転移病変の再増大に対する検討.
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (口演)
29. 芳賀紀裕, 石畝 亨, 桑原公亀, 天野邦彦, 近谷賢一, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
食道癌術後における早期免疫調整栄養剤投与の検討.
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (口演)
30. 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
胃・十二指腸潰瘍穿孔術後合併症発症のリスク因子としての腹水量.
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (口演)
31. 田島雄介, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
大腸癌肝転移症例における肝所属リンパ節転移の検討.
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (口演)
32. 伊藤徹哉, 本城裕章, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
直腸癌に対する低位吻合後の closed suction drain 留置の意義.
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (口演)
33. 幡野 哲, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
大腸癌腹膜播種に対する mFOLFOX6 の効果.
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (口演)

34. 大城 充, 石橋敬一郎, 松岡 宏, 手塚 徹, 加藤良二, 石田秀行, 前田耕太郎, 坂本純一, 幸田圭史.
進行・再発大腸癌患者に対する Bevacizumab 併用 mFOLFOX7 療法間欠投与の検討 第II相試験—CRAFT study—初回報告.
第66回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15 (口演)
35. Amano T, Shimada Y, Nishina T, Shinozaki K, Esaki T, Komatsu Y, Tsuji A, Tsuji Y, Amagai K, Sato T, Ishibashi K, Shimozuma K, Akita H, Ohashi Y, Frederick H. Hausheer.
Validation of self-reported questionnaire(PNQ) for neurotoxicity of oxaliplatin with comparison between physician's and patient's toxicity assessments: CSP-HOR 16.
第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, 横浜, 2011.7.21-23 (口演)
36. 桑原公亀, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 岡田典倫, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸穿孔術後重症合併症発生に關与する因子の解析.
第47回日本腹部救急医学会総会, 福岡, 2011.8.11-12 (口演)
37. 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
胃・十二指腸潰瘍穿孔症例における腹水量の臨床的意義.
第47回日本腹部救急医学会総会, 福岡, 2011.8.11-12 (口演)
38. 橋本昌幸, 幡野 哲, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
小腸 GIST により腸重積をきたした Von Reckling-Hausen 病の1例.
第47回日本腹部救急医学会総会, 福岡, 2011.8.11-12 (口演)
39. 本城裕章, 芳賀紀裕, 平岡 優, 近谷賢一, 伊藤徹哉, 天野邦彦, 石畝 亨, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 隈元謙介, 本戸幹夫, 石田秀行, 高橋健夫.
進行食道癌化学放射線療法施行後に食道狭窄を来し, その後原発巣が消失した1例.
第822回外科集談会, 高崎, 2011.9.17 (口演)
40. 高林英日己, 石田周幸, 山本龍一, 隈元謙介, 加藤真吾, 石橋敬一郎, 石田秀行, 屋嘉比康治.
当院における緊急下部消化管内視鏡検査の現況.
第29回日本大腸検査学会総会, 東京, 2011.9.17-18 (ワークショップ)

41. 石畝 亨, 芳賀紀裕, 本城裕章, 天野邦彦, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 辻 美隆, 石田秀行.
T4M0 食道癌に対する化学放射線療法 of 検討.
第 65 回日本食道学会学術集会, 仙台, 2011.9.26 (紙上発表)
42. 石橋敬一郎, 岡田典倫, 田島雄介, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 隈元謙介, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
原発巣 mRNA 発現からみた切除不能大腸癌肝転移に対する mFOLFOX6.
第 9 回日本消化器外科学会大会, 福岡, 2011.10.20-23 (示説)
43. 芳賀紀裕, 石畝 亨, 桑原公亀, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 辻 美隆, 石田秀行.
胃癌待機手術における SSI の危険因子の検討.
第 9 回日本消化器外科学会大会, 福岡, 2011.10.20-23 (示説)
44. 隈元謙介, 天野邦彦, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
当科における根治切除不能 StageIV 大腸癌の治療成績.
第 9 回日本消化器外科学会大会, 福岡, 2011.10.20-23 (示説)
45. 桑原公亀, 隈元謙介, 天野邦彦, 幡野 哲, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
進行大腸癌に対する化学療法 of 効果判定における血清抗 p53 抗体価測定 of 意義.
第 9 回日本消化器外科学会大会, 福岡, 2011.10.20-23 (示説)
46. 本城裕章, 石橋敬一郎, 岡田典倫, 田島雄介, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 隈元謙介, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
大腸癌肝転移切除後 mFOLFOX6 療法 of 治療成績—同時性と異時性を比較して—.
第 9 回日本消化器外科学会大会, 福岡, 2011.10.20-23 (示説)
47. 石橋敬一郎, 岡田典倫, 田島雄介, 桑原公亀, 傍島 潤, 石畝 亨, 大澤智徳, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸癌根治切除後補助化学療法としての mFOLFOX6 療法 of 安全性と有用性.
第 49 回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 2011.10.27-29 (口演)

48. 本城裕章, 石橋敬一郎, 岡田典倫, 石畝 亨, 大澤智徳, 傍島 潤, 桑原公亀, 幡野 哲, 天野邦彦, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
切除不能再発大腸癌に対する FOLFOX/FOLFIRI failure 後の抗 EGFR 抗体の治療成績.
第 49 回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 2011.10.27-29 (口演)
49. 幡野 哲, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 桑原公亀, 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
Stage II 直腸癌に高リスク因子は存在するか? .
第 49 回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 2011.10.27-2 (口演)
50. 傍島 潤, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
Stage II/III 大腸癌の穿孔・閉塞症例の比較検討.
第 49 回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 2011.10.27-29 (示説)
51. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 傍島 潤, 桑原公亀, 石畝 亨, 天野邦彦, 幡野 哲, 田島雄介, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
XELOX と mFOLFOX6 の治療効果の比較検討及び有害事象の発生状況.
第 49 回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 2011.10.27-29 (ミニシンポジウム)
52. 今泉英子, 石橋敬一郎, 岡田典倫, 田島雄介, 天野邦彦, 桑原公亀, 傍島 潤, 石畝 亨, 大澤智徳, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
切除不能再発大腸癌 K-ras 野生型における 1 次治療 mFOLFOX6+bevacizumab 療法.
第 49 回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 2011.10.27-29 (示説)
53. 川崎晋吾, 神谷 宏, 手塚 徹, 大城 充, 石橋敬一郎, 松岡 宏, 宮内英聡, 新村兼康, 橋本拓造, 秋山清次, 浜田知久馬, 坂本純一, 幸田圭史.
進行・再発大腸癌に対する 1st line BV+mFOLFOX7 間欠投与の検討—CRAFT study—最終報告.
第 49 回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 2011.10.27-29 (ミニシンポジウム)
54. 俵 英之, 小柳和夫, 小山 勇, 小川展二, 中村純一, 石田秀行, 田中洋一, 小西文雄, 吉田行雄, 伊藤 博, 長谷和生, 山本順司, 山口真彦, 上田善彦, 伴 慎一.
埼玉県における GIST 治療の現状—埼玉県 GIST 研究会アンケート調査.
第 49 回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 2011.10.27-29 (口演)

55. 隈元謙介, 石橋敬一郎, 天野邦彦, 幡野 哲, 桑原公亀, 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸癌同時性肝転移症例に対する治療戦略と成績.
第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2011.11.17-19 (パネルディスカッション)
56. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 傍島 潤, 幡野 哲, 田島雄介, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
進行結腸癌への応用を念頭に置いた臍周囲孤状切開による SILS の工夫.
第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2011.11.17-19 (ビデオ)
57. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 傍島 潤, 幡野 哲, 田島雄介, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
 Ω (オメガ) -incision での SILS colectomy による巨大虫垂嚢胞性腫瘍切除.
第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2011.11.17-19 (ビデオ)
58. 傍島 潤, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
直腸癌切除吻合後の closed suction drain 留置の意義.
第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2011.11.17-19 (口演)
59. 芳賀紀裕, 石橋敬一郎, 岡田典倫, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 隈元謙介, 佐野元彦, 小松崎健, 石田秀行.
当科における外来化学療法室での効率化と安全性への取り組み.
第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2011.11.17-19 (口演)
60. 伊藤徹哉, 石橋敬一郎, 三浦恵美, 傍島 潤, 幡野 哲, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
Multidetector-row computed tomography(MDCT)にて術前に診断し得た虫垂憩室穿孔の 1 例.
第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2011.11.17-19 (口演)
61. 近谷賢一, 天野邦彦, 本城裕章, 大澤智徳, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 石田秀行.
Crohn 病に伴う S 状結腸狭窄病変に発症した 4 型大腸癌の 1 例.
第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2011.11.17-19 (口演)

62. 大澤智徳, 隈元謙介, 田島雄介, 天野邦彦, 幡野 哲, 桑原公亀, 傍島 潤, 岡田典倫, 石畝 亨, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
併存疾患を有する痔核患者に対する ALTA 療法の治療成績.
第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2011.11.17-19 (口演)
63. 平岡 優, 小野朋二郎, 桑原公亀, 石畝 亨, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
繰り返す出血のため胃切除術を施行した胃 AVM の 1 例.
第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2011.11.17-19 (口演)
64. 天野邦彦, 隈元謙介, 伊藤徹哉, 久保田将, 大澤智徳, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行, 池田理恵.
術前免疫染色が有用であった肛門管癌 Pagetoid spread の 1 例.
第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2011.11.17-19 (口演)
65. 小野朋二郎, 桑原公亀, 石畝 亨, 隈元謙介, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
当科で手術を施行した小腸穿孔症例の検討.
第 73 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2011.11.17-19 (口演)
66. 石田秀行
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26 (プレゼンター, クリニカルカンファレンス, 進行癌 2)
67. 桑原公亀, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
76 歳以上高齢者 stageIII 大腸癌の補助化学療法的安全性.
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26 (口演)
68. 桑原公亀, 石橋敬一郎, 隈元謙介, 大澤智徳, 岡田典倫, 芳賀紀裕, 石田秀行.
高齢者大腸癌における腫瘍内 TS, DPD, OPRT, TP の発現.
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26 (口演)
69. 田島雄介, 石橋敬一郎, 桑原公亀, 岡田典倫, 傍島 潤, 大澤智徳, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
mFOLFOX6 療法の効果予測因子としての TP, DPD, ERCC1, TS 発現.
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26 (口演)

70. 天野邦彦, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行, 三鍋俊春.
Perianal Paget's Disease 手術における会陰部皮膚皮弁再建術の有用性.
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26 (示説)
71. 傍島 潤, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
結腸癌に対する横小切開根治術.
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26 (口演)
72. 隈元謙介, 石橋敬一郎, 天野邦彦, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫, 岩間毅夫, 石田秀行.
当科における StageIV大腸癌の治療成績の検討.
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26 (口演)
73. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 桑原公亀, 傍島 潤, 天野邦彦, 幡野 哲, 田島雄介, 久保田 将, 本城裕章, 近谷賢一, 平岡 優, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
Koehne's Index による mFOLFOX6±bevacizumab の治療効果予測.
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26 (示説)
74. 小野朋二郎, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
mFOLFOX6 療法により消失・嚢胞化した大腸癌肝転移病巣の再増大に対する検討.
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26 (示説)
75. 石橋敬一郎, 田島雄介, 桑原公亀, 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸癌同時性肝転移根治的切除の肝所属リンパ節の意義.
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26 (口演)
76. 石橋敬一郎, 岡田典倫, 田島雄介, 桑原公亀, 傍島 潤, 石畝 亨, 大澤智徳, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
StageIV大腸癌根治切除後 mFOLFOX6 療法の安全性と有用性.
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26 (口演)

77. 近谷賢一，石橋敬一郎，田島雄介，桑原公亀，大澤智徳，岡田典倫，隈元謙介，芳賀紀裕，石田秀行.
大腸穿孔症例における HMGB-1 術後推移.
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会，東京，2011.11.25-26（示説）
78. 大澤智徳，田島雄介，小野朋二郎，天野邦彦，幡野 哲，桑原公亀，傍島 潤，岡田典倫，隈元謙介，石橋敬一郎，石田秀行.
当科における痔核に対する ALTA 治療経験と成績.
第 66 回日本大腸肛門病学会学術集会，東京，2011.11.25-26（示説）
79. 伊藤徹哉，芳賀紀裕，石畝 亨，桑原公亀，隈元謙介，熊谷洋一，石橋敬一郎，石田秀行，阿部佳子，田丸淳一，糸山進次.
術前化学療法を施行した胃神経内分泌細胞癌の 1 例.
第 29 回埼玉県外科集談会，さいたま，2011.11.26，（口演）
80. 芳賀紀裕，石橋敬一郎，石畝 亨，桑原公亀，大澤智徳，岡田典倫，隈元謙介，石田秀行.
胃癌・大腸癌に対する周術期抗菌薬短縮化の妥当性と SSI の危険因子：単一施設による前向きランダム化非劣性試験.
第 24 回日本外科感染症学会総会，志摩，2011.12.1-2（シンポジウム）
81. 桑原公亀，石橋敬一郎，田島雄介，近谷賢一，石畝 亨，岡田典倫，隈元謙介，芳賀紀裕，石田秀行.
大腸穿孔 128 例の治療成績からみた治療方針.
第 24 回日本外科感染症学会総会，志摩，2011.12.1-2（ワークショップ）
82. 桑原公亀，石橋敬一郎，近谷賢一，石畝 亨，岡田典倫，隈元謙介，芳賀紀裕，石田秀行.
大腸穿孔症例における AT-III 活性と敗血症の重症度，DIC 発症との関係.
第 24 回日本外科感染症学会総会，志摩，2011.12.1-2（口演）
83. 近谷賢一，石橋敬一郎，桑原公亀，田島雄介，傍島 潤，芳賀紀裕，石田秀行.
大腸穿孔症例における HMGB-1 の PMX-DHP 前後における推移.
第 24 回日本外科感染症学会総会，志摩，2011.12.1-2（口演）

84. 石橋敬一郎, 桑原公亀, 近谷賢一, 田島雄介, 傍島 潤, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸穿孔症例および大腸癌待機手術症例における HMGB-1 術後推移.
第 24 回日本外科感染症学会総会, 志摩, 2011.12.1-2 (口演)
85. 傍島 潤, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
緊急ハルトマン手術の諸問題.
第 24 回日本外科感染症学会総会, 志摩, 2011.12.1-2 (口演)
86. 田島雄介, 石橋敬一郎, 近谷賢一, 本城裕章, 石畝 亨, 桑原公亀, 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
結腸癌根治手術症例におけるドレーン非留置の検討.
第 24 回日本外科感染症学会総会, 志摩, 2011.12.1-2 (口演)
87. 傍島 潤, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
人工肛門閉鎖時の創感染に関する対策 (randomized controlled trial(RCT)).
第 24 回日本外科感染症学会総会, 志摩, 2011.12.1-2 (口演)
88. 天野邦彦, 石橋敬一郎, 幡野 哲, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 熊谷洋一, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
TNM 分類第 7 版 Stage IV(Stage IVA, IVB)大腸癌における腹膜播種の位置づけ.
第 76 回大腸癌研究会, 宇都宮, 2012.1.20 (口演)
89. 幡野 哲, 石橋敬一郎, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 熊谷洋一, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
新規抗癌剤時代に PCI(peritoneal cancer index)は, 大腸癌腹膜播種の予後の予測に有用か? .
第 76 回大腸癌研究会, 宇都宮, 2012.1.20 (口演)
90. 桑原公亀, 石畝 亨, 芳賀紀裕, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
StageIV胃癌における modified Glasgow prognostic score(mGPS)の有用性.
第 84 回日本胃癌学会総会, 大阪, 2012.2.8-10 (口演)
91. 芳賀紀裕, 石畝 亨, 桑原公亀, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 辻 美隆, 石田秀行.
StageIV胃癌における術前化学療法の成績.
第 84 回日本胃癌学会総会, 大阪, 2012.2.8-10 (示説)

92. 隈元謙介, 石橋敬一郎, 中村 泉, 大木進司, 石田秀行, 竹之下誠一
転移性大腸癌に対する mFOLFOX の効果予測因子の検討
第 45 回制癌剤適応研究会, 東京, 2012.3.2 (ワークショップ)
93. 桑原公亀, 石橋敬一郎, 伊藤徹哉, 今泉英子, 幡野 哲, 熊谷洋一, 隈元謙介,
芳賀紀裕, 石田秀行.
高齢者大腸穿孔における臨床病理学的特徴の検討.
第 48 回日本腹部救急医学会総会, 金沢, 2012.3.14-15 (口演)
94. 幡野 哲, 石橋敬一郎, 桑原公亀, 熊谷洋一, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
StageII 結腸癌穿孔症例の検討.
第 48 回日本腹部救急医学会総会, 金沢, 2012.3.14-15 (口演)
95. 今泉英子, 桑原公亀, 伊藤徹哉, 幡野 哲, 熊谷洋一, 隈元謙介, 石橋敬一郎,
芳賀紀裕, 石田秀行.
当科における妊娠中の腹部救急手術について.
第 48 回日本腹部救急医学会総会, 金沢, 2012.3.14-15 (口演)
96. 伊藤徹哉, 桑原公亀, 今泉英子, 幡野 哲, 熊谷洋一, 隈元謙介, 石橋敬一郎,
芳賀紀裕, 石田秀行.
転移性大腸癌化学療法中に消化管穿孔(穿通)を併発した 2 症例.
第 48 回日本腹部救急医学会総会, 金沢, 2012.3.14-15 (口演)
97. 橋本昌幸, 桑原公亀, 熊谷洋一, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸癌穿孔における癌部穿孔と非癌部穿孔の検討.
第 48 回日本腹部救急医学会総会, 金沢, 2012.3.14-15 (口演)
98. 酒庭康孝, 隈元謙介, 桑原公亀, 橋本昌幸, 伊藤徹哉, 今泉英子, 幡野 哲,
熊谷洋一, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
若年男子に発症し腸重積の原因となった腸管囊腫様気腫症の 1 例.
第 48 回日本腹部救急医学会総会, 金沢, 2012.3.14-15 (口演)
99. 北村智恵子, 桑原公亀, 芳賀紀裕, 伊藤徹哉, 今泉英子, 幡野 哲, 熊谷洋一,
隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
椎茸による食餌イレウスの 1 例.
第 48 回日本腹部救急医学会総会, 金沢, 2012.3.14-15 (口演)

2011 年度学会・研究会（座長・司会）

1. Ishida H IBD (Inflammatory Bowel Disease) (Free Papers)
The 57th Annual Congress of the Japan Section of the International Collage of Surgons
Nagoya, Japan, June 25, 2011
2. Ishida H Basic and malignant miscellaneous (Poster)
International Surgical Week 2011(ISDS), Yokohama, Japan, August 28-September 1,
2011
3. 石田秀行 大腸 化学療法 2 (口演)
第 111 回日本外科学会定期学術集会, 紙上開催, 2011.5.25
4. 石田秀行 大腸 (口演)
第 33 回日本癌局所療法研究会, 大阪, 2011.6.10
5. 石田秀行 下部消化管 3 (示説)
第 36 回日本外科系連合学会学術集会, 千葉, 2011.6.16-17
6. 隈元謙介 癌の epigenetics と microRNA (ワークショップ)
第 20 回日本癌病態治療研究会, 東京, 2011.6.17-18
7. 石田秀行 StageIVの細分類 (示説)
第 75 回大腸癌研究会, 東京, 2011.7.8
8. 石田秀行 消化器癌に対する分子生物学の臨床応用 (下部消化管) (ワーク
ショップ)
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15
9. 石橋敬一郎 大腸癌その他 (口演)
第 66 回日本消化器外科学会総会, 名古屋, 2011.7.13-15
10. 桑原公亀 大腸 1 (口演)
第 822 回外科集談会, 高崎, 2011.9.17
11. 石田秀行 大腸 症例 2 (示説)
第 9 回日本消化器外科学会大会, 福岡, 2011.10.20-23

12. 石田秀行 大腸2 (ワークショップ)
第49回日本癌治療学会学術集会, 名古屋, 2011.10.27-29
13. 石田秀行 StageIV大腸癌に対する補助療法 (ワークショップ)
第66回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26
14. 石橋敬一郎 神経内分泌腫瘍2 (口演)
第66回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2011.11.25-26
15. 石田秀行 大腸癌肝転移における新たな治療戦略 (パネルディスカッション)
第73回日本臨床外科学会総会, 東京, 2011.11.17-19
16. 石田秀行 消化管手術の新しい周術期感染管理 (パネルディスカッション)
第24回日本外科感染症学会総会, 志摩, 2011.12.1-2
17. 石橋敬一郎 創感染症対策1 (口演)
第24回日本外科感染症学会総会, 志摩, 2011.12.1-2
18. 石田秀行 腹膜転移のすべて (示説)
第76回大腸癌研究会, 宇都宮, 2012.1.20
19. 石田秀行 大腸2 大腸穿孔 (口演)
第48回日本腹部救急医学会総会, 金沢, 2012.3.14-15
20. 芳賀紀裕 外傷3 消化管1 (口演)
第48回日本腹部救急医学会総会, 金沢, 2012.3.14-15
21. 桑原公亀 イレウス1 胆石イレウス (示説)
第48回日本腹部救急医学会総会, 金沢, 2012.3.14-15

講演会・懇話会など

座長・司会

1. 石田秀行
外科領域における敗血症治療を考える会
川越, 2011.4.15 (座長)
2. 石田秀行
大腸癌治療カンファレンス 2011 in 川越
川越, 2011.5.18 (司会)
3. 石田秀行
がん治療地域病診連携勉強会
川越, 2011.5.20 (司会)
4. 石田秀行
胃癌治療カンファレンス 2011 in 川越
川越, 2011.6.8 (司会)
5. 石田秀行
最先端消化器病フォーラム Meet the Expert～消化器疾患治療の最前線～
川越, 2011.6.21 (座長)
6. 石田秀行
がんの地域連携パスに関する勉強会
川越, 2011.7.19 (司会)
7. 石田秀行
埼玉県大腸外科教育セミナー
さいたま, 2011.9.2 (座長)
8. 石田秀行
第2回西埼玉消化器外科手術手技カンファレンス
川越, 2011.10.12 (座長)

9. 石田秀行
川越ヘルニアセミナー
川越, 2011.10.18 (座長)

10. 石田秀行
大腸癌治療カンファレンス in 川越
川越, 2011.11.2 (座長)

11. 石田秀行
最新の大腸癌治療を考える会
さいたま, 2012.2.4 (座長)

12. 石橋敬一郎
第2回大腸癌治療ガイドライン講座—実践編—
川越, 2012.2.17 (司会)

13. 石田秀行
川越消化器外科 KAMPO セミナー
川越, 2012.2.24 (座長)

14. 石田秀行
第1回埼玉大腸癌外科カンファレンス
さいたま, 2012.3.5 (座長)

15. 石田秀行
大腸癌治療カンファレンス in 川越
川越, 2012.3.30 (座長)

講演

教育講演

1. だれにでも出来る低浸襲手術：小切開・SILS.
石田秀行
第11回うつくしま臨床外科フォーラム，郡山，2011.7.22
2. FOLFOX 療法の効果予測因子の探求～付随研究の臨床的意義～.
隈元謙介
Colorectal Cancer Forum，東京，2011.8.27
3. 進行大腸がんの診断と治療.
石田秀行
埼玉県病院薬剤師会 抗がん剤勉強会，さいたま，2011.10.5
4. 進行大腸がんの治療.
石田秀行
がんプロフェッショナル養成プラン 北関東連携がん先進医療人育成プラン
合同セミナー，前橋，2011.10.31
5. 大腸癌肝転移に対する薬物治療と手術治療.
石田秀行
第11回新札幌がんフォーラム，札幌，2011.11.11
6. オキサリプラチンを用いた大腸癌術後補助化学療法.
石橋敬一郎
第76回大腸癌研究会，ランチョンセミナー，宇都宮，2012.1.20
7. 大腸がんの外科治療と補助療法.
石田秀行
市民公開講座 もっと知ってほしい大腸がんのこと in 埼玉，さいたま，2012.2.2

その他の発表

1. 当科における大腸穿孔の検討.
桑原公亀
外科領域における敗血症を考える会, 川越, 2011.4.15
2. 当科における胃・十二指腸潰瘍穿孔の検討～術式, *Helicobacter pylori* 除菌率を中心～.
石畝 亨
最先端消化器病フォーラム, 川越, 2011.6.21
3. 大腸癌.
石橋敬一郎
がんの地域連携パスに関する勉強会, 川越, 2011.7.19
4. 胃癌事前アンケート結果報告.
芳賀紀裕
第1回胃癌TVネットワークセミナー, 川越, 2011.9.16
5. StageIV 胃癌患者に対する免疫栄養剤使用への展望.
桑原公亀
埼玉西部地区 NST 講演会 がん免疫栄養について考える, 川越, 2011.9.30
6. アンケート結果報告.
桑原公亀
川越“あしたのもと会”打ち合わせ会, 川越, 2011.10.3
7. 局所・多発肝転移を呈した直腸カルチノイドの1例.
本城裕章
川越外科臨床研究会, 川越, 2011.10.6
8. 当科での Panitumumab 施行症例.
田島雄介
第2回西埼玉消化器外科手術手技カンファレンス, 川越, 2011.10.12

9. 大腸がんを合併した潰瘍性大腸炎，クローン病の各1例.
天野邦彦
第13回川越消化器病談話会，川越，2011.11.16

10. 神経障害に対する対処法.
石橋敬一郎
第9回西埼玉消化器 ONCOLOGY 研究会，川越，2012.2.13

11. オキサリプラチンによる末梢神経障害に対する対策～Ca/Mg 剤を中心に～.
石橋敬一郎
川越消化器外科 KAMPO セミナー，川越，2012.2.24

主な学会・研究会発表の年次推移

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
日本外科学会	2	1	2	4	6	5	7
日本消化器外科学会総会	1	2	7	8	5	7	14
日本消化器外科学会大会	\	\	\	\	\	4	5
日本大腸肛門病学会	10	10	8	8	12	10	13
日本食道学会			1	2	1		1
日本胃癌学会			3	1	4	4	2
日本癌治療学会		1	3	3	6	5	8
日本臨床外科学会	16	3	17	13	11	7	11
日本腹部救急医学会		4			3	延期	10
日本外科感染症学会	1	5	5	3	4	1	8
大腸癌研究会（年2回）	3	3	2	2	5	3	3
癌局所療法研究会		2	5	5	6	8	9
その他の国内学会	10	17	23	26	27	12	8
ISUCRS 国際大学直腸結腸外科学会		3			9		
その他の国際学会	2	3	5	9	9	17	7
合計	45	54	81	84	108	83	106

賞

第9回日本消化器外科学会大会 ポスター優秀演題賞

石橋敬一郎

原発巣 mRNA 発現からみた切除不能大腸癌肝転移に対する mFOLFOX6.

第9回日本消化器外科学会大会 ポスター優秀演題賞

隈元謙介

当科における根治切除不能 StageIV大腸癌の治療成績.

第49回日本癌治療学会学術集会 優秀演題賞

今泉英子

切除不能再発大腸癌 K-ras 野生型における1次治療 mFOLFOX6+bevacizumab 療法.

第48回日本腹部救急医学会総会 研修医優秀賞

北村智恵子

椎茸による食餌イレウスの1例.

人 事 (2011.4~2012.3)

教授	准教授	講師		助教(助手)	
石田秀行	芳賀紀裕	○石橋敬一郎		岡田典倫	~12.1
岩間毅夫 (客員教授)	辻美隆 (兼担)	熊谷洋一	11.10~	○大澤智徳	
		隈元謙介		傍島 潤	
		岡田典倫	12.2~	桑原公亀	
				石畝 亨	
				天野邦彦	
				鈴木興秀	12.1~
				幡野 哲	
				今泉英子	11.8~
				小野朋二朗	
				田島雄介	
				山本 梓	12.1~12.3
				本城裕章	
				平岡 優	~11.9
				伊藤徹哉	
				近谷賢一	~11.12

○医局長 (総務担当) ~11.12 大澤 12.1~ 石橋

出向中医師 (2012.4.1 現在)

牧田陽一郎	本川越病院
沖田剛之	毛呂病院
石塚直樹	埼玉よりい病院 (東松山市立市民病院, 6.1~)
吉田 裕	小川赤十字病院
久保田将	太田西ノ内病院
山本 梓	埼玉県立循環器・呼吸器病センター
近谷賢一	東京都立大塚病院
平岡 優	小川赤十字病院

編集後記

昨年度年報の編集後記で述べさせて頂きましたように、埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科では1年ごとに教室の実績を業績集として作成することとしました。今回、年度ごとでは2刊目となる2011年度の業績集が刊行されましたのでお届けしたいと思います。

2011年度は東日本大震災という未曾有の災害に見舞われ、震災地、被災者の皆様や、復興に携わる方々にとって大変な年でありました。学会等も中止や紙上開催といった対応となりました。幸いなことに、当科では1週間程度計画停電のため予定手術ができないことがありましたが、診療を含めた業務には大きな支障は出ませんでした。しかし、被災地から避難してきた方々の診療を行うことも多く、まだまだ震災の爪痕が残っていることを実感させられ、早く完全復興されることを祈るばかりです。

土曜日手術枠が新設されたことにより、手術数は徐々に増加しております。緊急手術も相変わらず多いのですが、これは地域のニーズに応えた結果と思います。今後も食道癌のような高度侵襲手術例や、重篤な合併症をもつ症例も含めさらなる患者数の増加が見込まれます。研究業績は、今年度は論文51編(in press 含め)、学会・研究会発表106件であり年々増加しています。今後も質量ともに高めるべく教室員全員で精進してゆきたいと思っております。

今年度は、食道外科、大腸の腹腔鏡手術を専門とする上級医が加わり、教室としては充実してきております。教室としてさらに魅力あるものとし、診療、教育、研究ともにレベルを上げてゆく所存であります。

引き続き今後も皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

平成24年6月
芳賀紀裕